

科目区分	教養教育科目 文化と生活			聴講	可	
授業科目名	群馬県民の文化と生活	科目履修	否	単位互換	否	
科目番号	A01001	クラス番号	C1(学部合同)			
授業形式	講義	必修選択区分	必修			
開講時期	1年次 前期 Semester	単 位	2単位 30時間			
科目責任者	石川良樹	そ の 他				
担当教員	徳江秀夫、町田悟、中里昌之、松浦利隆、田中修					
授業の概要	<p>本学の在る群馬県の人々の生活とその生活の中で生まれ・継承されてきた文化の特徴を学習する。この過程を通し、地域の特徴がその地域の生活様式や文化にどのように影響するかを理解し、人間の持つ文化的背景や生活様式の多様性を受け入れ尊重する意義を学習する。</p>					
目的	<p>目的：本学の在る群馬県の人々の生活とその生活の中で生まれ・継承されてきた文化の特徴と人間の持つ文化的背景や生活様式の多様性を受け入れ尊重する意義を学習する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 埋蔵文化財の特徴を通して、群馬県の歴史と文化を習得する。</li> <li>2. 群馬県の自然の特色とその風土に育まれてきた産業の特色について習得する。</li> <li>3. 心の文学である俳句の世界を通して捉えた群馬県民の文化と生活について習得する。</li> <li>4. 群馬県で起こった大事件を通じ、各時代の社会や人々の生活の事情について考える。</li> </ol>					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修(学修課題)	担当	
	1	4/11《オリエンテーション》 ・本科目のねらいとは 《特別講義》 ・60分でわかる「現在の群馬」	講義	・毎回、学修課題を提示。	石川 田中	
	2	4/18《古代東国文化の中心地・群馬》 ・群馬県内の代表的な遺跡や古墳を紹介しながら、群馬がなぜ東日本最大の古墳大国、古代東国文化の中心地といわれるようになったのかを考える。			徳江	
	3	5/2《はにわにみる群馬の顔》 ・群馬県内につくられた古墳には数多くのはにわが立てられた。人物埴輪の造形から古墳時代の人々のファッションや暮らしを探る。				
	4	5/9《古墳の出土品からみた群馬とヤマト政権》 ・古墳から出土した様々な品物(副葬品)を通して、古墳時代の群馬とヤマト政権があった近畿地方との関係、中国や朝鮮半島とのつながりについて考える。				
	5	5/16《自然災害と群馬の遺跡》 ・現在の群馬は地震も少なく、安全な地域と思われがちであるが、古墳時代から江戸時代、火山災害が連続して起きた地域である。遺跡の発掘調査から明らかになった災害の様子と、被災から復興へ向けて尽力した先人たちの歴史を学ぶ。				
	6	5/23《群馬県の自然環境と生活》 ・群馬県の生活・産業・文化の基になっている自然環境について、高地から低地まで変化に富む地形と、冬季の豪雪地帯と乾燥地帯、夏季の高冷地と高温地など多様性に富む気候について概観する。				町田
	7	5/30《群馬県の農業の変遷》 ・近世から近代・現代に至る農業生産の変遷を養蚕業を中心に考察する。また、養蚕技術の改良に努めた人物について考える。				

授業の内容と方法	8	6/6《群馬県の商工業の発展》 ・近世から現代に至る工業生産の発展を製糸業、絹織物業を中心に考察する。あわせて製糸業が日本の近代化に果たした役割について考える。			
	9	6/13《経済社会構造の変化と群馬県の産業の現況》 ・養蚕県から野菜・畜産県に変化した農業、繊維工業から機械工業中心に変化した工業について、日本経済の停滞の中で抱えている問題を含めて考察する。また蚕糸業、絹産業の未来について考える。			
	10	6/20《群馬県民の生活と文化が生んだ「絹の俳句」》 ・群馬県の養蚕生活や絹の文化がどのような「絹の俳句」を育んだかについて、世界文化遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」を詠った俳句作品や群馬県の養蚕生活をテーマとした俳句作品等を通して考える。			中里
	11	6/27《群馬県の俳人と句碑の文化》 ・群馬県の自然風土や精神風土が、村上鬼城、長谷川零余子、相葉有流の俳句作品の形成にどう影響したかについて考える。また、群馬の句碑とその文化について考える。			
	12	7/4《俳句の作り方と鑑賞の仕方》 ・俳句の歴史を概観し、その作り方と鑑賞の仕方を学習する。また、俳句を実際に作って、その自作のポイントについて解説する。			
	13	・「大事件で見る群馬県の近世・近代・現代」と題して18世紀のから現代まで群馬県で起こった大事件を通じ、各時代の社会や人々の生活の実情について考える。初回は江戸時代の重大事件で、浅間山の大爆発(1783年)、国定忠治の逮捕(1850年)、黒船来航から明治維新(1853～)を扱う。			松浦
	14	・この時間は、明治から昭和戦前の間に起こった、日清・日露戦争(1894-1905)、富岡製糸場設置と絹産業の興隆(1872～)、第二次世界大戦(1941～)を取り扱う。			
15	・最終回は、戦後群馬の三大事件と呼ばれる、大久保事件(連続女性誘拐殺人)(1971)、連合赤軍事件(学生生活動家の殺人、籠城事件)(1972)、日本航空機墜落事故(1985)を扱う。				
自己学修時間	60時間				
評価方法	レポート・提出課題による各教員の評価の平均				
教科書	指定しない				
参考書 参考文献等	『「上毛かるた」で見つける群馬のすがた』群馬県 『「上毛かるた」ゆかりの地 文化めぐり』群馬県 『群馬県謎解き散歩』新人物文庫				
オフィスアワー	月曜日/時間：13時～14時/研究室	連絡先	ryoki@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	13・14・15回の日程は、確定次第改めて周知する。				

科目区分	教養教育科目 文化と生活			聴講	否
授業科目名	芸術（音響芸術）	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A01002	クラス番号	C1（学部合同）		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・（2年次）前期 Semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	石原理恵	そ の 他			
担当教員	石原理恵				
授業の概要	芸術とは、人間の精神的・身体的活動を色・形・音などによって美的に創造表現する人間の活動及びその産物である。また、芸術は文化の中核的要素であり、真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活の実現に不可欠である。この授業においては、すぐれた音響芸術の鑑賞を通して音響芸術が創造・表現する美的価値に対する感受性を養う。また、芸術を通して自己の精神的・身体的活動を表現する価値を理解する。				
目的	目的：クラシック音楽や世界の様々な音楽を鑑賞し、それらについての基礎的な知識を身につけることで、心の豊かさやゆとりの実感できる生活を送れることを目指す。また、演習を通して、表現やコミュニケーションについても体験的に学修する。 目標：1.鑑賞を通して、日常的に楽しめる音楽の選択肢を増やす。 2.曲の背景や作曲家について学ぶことで、音楽作品についての理解を深める。 3.演習を通して、音楽表現やコミュニケーションについて体験的に学修する。 4.日常生活に音楽を活かすことで、心豊かな生活を送る方法を習得する。 5.医療者としての基礎教養を深める				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修（学修課題）	担当
	1	私の音楽歴： ・講義の位置づけと目的や目標について理解する ・グループワークで「私と音楽」について討議する	講義	<事前学修> 提示された作曲家や時代背景について文献を読み、代表曲を聴く。 授業終了毎のミニレポートに事前学修の内容を記載する。 <事後学修> 講義終了後、復習課題や課題曲を視聴し、レポート課題を提出する。	石原
	2	中世・ルネッサンス： 世俗音楽や宗教音楽の中から鑑賞し、学修する			
	3	バロック： 主にヴィヴァルディ、ヘンデルの作品を鑑賞し、学修する			
	4	バロック： バッハの作品を鑑賞し、学修する			
	5	古典派： 主にモーツァルトの作品を鑑賞し、学修する			
	6	死と音楽：主にモーツァルト、ヴェルディ、フォーレのレクイエムを鑑賞し、学修する			
	7	ロマン派： ショパン、シューマンのピアノ曲を中心に鑑賞し学修する	演習		
	8	ロマン派：声楽曲 シューマンの歌曲、プッチーニのオペラのアリアを中心に鑑賞し、学修する			
	9	演習： 小グループでベルの演奏、又は合唱曲に取り組む。 ・グループ形成の後、伴奏者、指揮者、リーダー等役割分担と課題曲を決定。 ・発声法や楽器について学修する。			
	10	演習 練習開始：各グループでの取り組み			
	11	演習 練習			
	12	演習 練習			
	13	演習 まとめ			
	14	演習 発表：グループごとに演奏を発表する			
15	音楽療法：音楽療法とは何か、どのように行われているのかを知り、ストレスマネジメントとしての活用法を学修する	講義	<事前学修> 提示課題について事前学修する。 <事後学修> 提示課題について事前学修する。		
自己学修時間	60時間				
評価方法	レポート及び期末レポート（60%）、演習（30%）、出席時のミニレポート（10%）				
教科書	「歌の宝宝箱」ドレミ出版				
参考書 参考文献等	講義の中で随時提示、紹介する。また必要に応じ適宜、楽譜、レジユメや資料を使用する。				
オフィスアワー	講義前後/非常勤講師室	連絡先			
履修要件	特になし				
備考	読譜力のあることが望ましい。1クラスの受講者は、20人までとする。履修希望者が定員を超えたときは、抽選により履修者を決定する。				

科目区分	教養教育科目 文化と生活			聴講	可
授業科目名	芸術 (造形芸術)		科目履修	可	単位互換
科目番号	A01003	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 後期semester		単 位	2単位 30時間	
科目責任者	寺澤徹	そ の 他			
担当教員	寺澤徹				
授業の概要	<p>芸術とは、人間の精神的・身体的活動を色・形・音などによって美的に創造表現する人間の活動及びその産物である。また、芸術は文化の中核的要素であり、真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活の実現に不可欠である。この授業においては、造形芸術の鑑賞を通して造形芸術が創造・表現する美的価値に対する感受性を養う。また、造形芸術の作成プロセスを体験し、自己の精神的活動を豊かに表現する価値を理解する。</p>				
目 的 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>感性をみがきながら、イメージの知覚と表現の在り方を実技演習の形式で学びます。</li> <li>造形芸術活動を通じて多様な視点を知る。人間の心、精神の豊さ、表現することの大切さ楽しさを認識する。</li> </ul>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1 ~ 3	<p>[アートコミュニケーション] *人と人を繋ぐ造形を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.道ゲームによるアトリテラシー</li> <li>2.コミュニケーションカード (言葉から絵、絵から言葉への変換)</li> <li>3.ペーパータワーによる協同表現(役割、貢献、評価)</li> <li>4.ペーパーカットコンテスト(行為と形)</li> <li>5.感覚開発ワーク(身体性と認知感覚を呼び覚ます活動)</li> </ol>	講義 と 演習	常に用具等事前準備を怠らず、次の課題のテーマについて考察をする。	寺澤
	4 ~ 7	<p>[表現技術] *表現するための技術</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ウォングハンドドローイング(30 faces project / 描写力トレーニング、困難を乗り越える、見ることと知ること、人との繋がり、協同行為、相互理解、原初の表現)</li> <li>2.自然との対話「自然の瓶詰め」(自然物の形と色、関係性、新しい感覚表現、表現の多様性)</li> </ol>			
	8 ~ 10	<p>[立体表現と材料研究] *空間認識と材料研究</p> <p>鉛筆カービング 練り消しゴムによる「1/30の自分」 古新聞紙と梱包テープによる「生物」造形 / アルミ фольドによる立体造形</p>			
	11 ~ 15	<p>[行為の記録 / 経験のアート] *思い出や経験(時間と空間)を視覚化する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ピクチャーダイアリー (図、絵、記号、文字による記録と表現 / アーカイブ)</li> <li>2.アートレター(視覚伝達 / 時間と空間の表現、思いを伝える手だて)</li> <li>3.ストーリーブック(物語と編集、ページの奥行き、時間の流れ、驚きと喜び)</li> </ol>			
自己学修時間	60 時間				
評価方法	作業を加味した上で、提出課題(感じ、驚き、興味をもちながら創作活動ができているか。感受性豊かに創造性に富んでいるか。)により評価する(100%)				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	特になし				
オフィスアワー	講義前後 / 非常勤講師室	連絡先			
履修要件	特になし				
備考	特になし				

科目区分	教養教育科目 文化と生活			聴講	可
授業科目名	芸術 (舞台芸術)		科目履修	可	単位互換
科目番号	A01004	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	2年次 後期セメスター	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	中村ひろみ	そ の 他			
担当教員	中村ひろみ				
授業の概要	<p>芸術とは、人間の精神的・身体的活動を色・形・音などによって美的に創造表現する人間の活動及びその産物である。また、芸術は文化の中核的要素であり、真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活の実現に不可欠である。この授業においては、舞台芸術の基礎と実際に体験し、身体を通して自己を表現する方法を学習する。</p>				
目的 目 標	<p>(目的) 演劇を上演し、観客と感動を共有する 自己を成長させる (目標) ・ストレッチ、脱力、腹式呼吸、発声を身につけることで身体の可動範囲の広さを体感する ・脚本の読み込みと演技を通じ、他者との関係性の中で「人間」を理解する ・毎回の講義後、レポートを手書きし、「ふりかえり」「気づき」の時間を確保することで、体感・理解したことを定着する ・体が柔らかくなる、大きな声が出るようになる、人の前でせりふが言える、それまでできなかったことができるようになることで、自分の可能性を認知する</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	自己紹介、身体訓練、身体遊び中心	講義 と 演習	<p>【事前学修】 3,4回以降は脚本を読み込み、台詞を覚えて講義に臨む。 【事後学修】 講義後、後述のレポートを作成(毎回、担当講師からレポートの評価・感想を返す)</p> <p>レポート提出約五回(自己紹介、なぜ舞台芸術を選択したか、舞台芸術でなにを身につけたいか、講義を通して気づく「できること」「できないこと」、発表会でなにを伝えたいか)</p>	中村
	2				
	3	身体訓練、発声法、脚本本読み、配役			
	4				
	5	基礎訓練と立ち稽古半々 この時間までに自己解放・リラックスができることを目標とする			
	6				
	7	基礎訓練から立ち稽古中心にシフトしていく。脚本の理解を深める			
	8				
	9	立ち稽古主体 自分だけでなく、せりふのやりとりに重点をおく			
	10				
	11	立ち稽古主体 この時間までにせりふを覚える			
	12				
	13	小返し・通し稽古主体 観客に伝えたいことを深める			
	14				
15	通し稽古、ゲネプロ ほぼ本番通りに演じる				
自己学修時間	60時間				
評価方法	期末試験 = 公開発表会 80%、レポート 20% 15回の講義の後、公開発表会を開催する				
教科書	特になし				
参考書 参考文献等	特になし				
オフィスアワー	講義前後 / 場所: 非常勤講師室	連絡先			
履修要件	特になし				
備考	原則、隔週1回2コマ連続で実施する。				

科目区分	教養教育科目 文化と生活			聴講	可																																																	
授業科目名	異文化の理解		科目履修	可	単位互換																																																	
科目番号	A01005	クラス番号	C1(学部合同)																																																			
授業形式	講義	必修選択区分	選択																																																			
開講時期	1年次・(2年次) 前期セメスター		単 位	2単位 30時間																																																		
科目責任者	結城恵	そ の 他																																																				
担当教員	結城恵																																																					
授業の概要	世界の多様な文化や社会を比較分析し、文化の相違が人間の生活に及ぼす影響を学習する。また、現在人類が直面している諸問題をグローバルな視野で捉えるための方法・態度を学習する。																																																					
目的	<p>目的：多文化地域の社会背景を理解し、共生社会を築くために必要な視点を体得し、地域課題を解決する専門職としての資質を高める。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.多文化社会が生まれた社会的背景を理解する。</li> <li>2.多文化社会における諸課題とその現状を理解する。</li> <li>3.「異」文化のとらえ方が多様であることを理解し、多文化時代に求められる視点を考察する。</li> <li>4.多文化時代の求められる「異」文化のとらえ方を、現実社会の現象にあてはめ、課題を抽出することができる。</li> <li>5.抽出した課題を解決する方法を検討し、専門職として求められる資質を考察することができる。</li> </ol>																																																					
授業の内容と方法	<p>本講義ではまず、群馬県でも顕著に表れているこの現象の社会的背景と多文化化する社会がもつ構造的な問題を理解する。次に、われわれが自明視しているやりとりや社会の仕組みを「異人の目」でとらえなおすことにより、多文化社会にもとめられるものの見方・考え方を学修する。最後に、多文化地域で保健・医療関係者、あるいは住民として貢献できる人材に必要な資質を体験的に学修する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業形態</th> <th>事前・事後学修(学修課題)</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「異なる」そして「異文化」とは？</td> <td>講義</td> <td rowspan="6">事前学修 前回の講義資料を復習する。</td> <td rowspan="6">結城</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「異なる」「異文化」はどう生まれるのか？</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「異文化」への理解を探求する手法(理論編)1</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「異文化」への理解を探求する手法(理論編)2</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「異文化」への理解を探求する手法(実践編)1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「異文化」への理解を探求する手法(実践編)2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>日本における多文化社会の成立基盤を考察する</td> <td rowspan="5">演習</td> <td rowspan="5">事前学修 グループ討議 に向け、文献を精読し整理する。</td> <td rowspan="5"></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>日本社会の「あたりまえ」を解く</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>「異なる」はどう生まれるのか</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>「異なる」こと・ものは扱われるのか</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>社会の「あたりまえ」が崩れるとき 上記 ~ の理解の確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>地域の共生課題へのアプローチ</td> <td rowspan="4">演習</td> <td rowspan="4">事後学修 演習終了後、地域の共生課題に関する課題レポートを提出する</td> <td rowspan="4"></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>資料検索</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>グループ発表1の評価レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>グループ発表2の評価レポート</td> </tr> </tbody> </table>					回	授業内容	授業形態	事前・事後学修(学修課題)	担当	1	「異なる」そして「異文化」とは？	講義	事前学修 前回の講義資料を復習する。	結城	2	「異なる」「異文化」はどう生まれるのか？	演習	3	「異文化」への理解を探求する手法(理論編)1	講義	4	「異文化」への理解を探求する手法(理論編)2	演習	5	「異文化」への理解を探求する手法(実践編)1		6	「異文化」への理解を探求する手法(実践編)2		7	日本における多文化社会の成立基盤を考察する	演習	事前学修 グループ討議 に向け、文献を精読し整理する。		8	日本社会の「あたりまえ」を解く	9	「異なる」はどう生まれるのか	10	「異なる」こと・ものは扱われるのか	11	社会の「あたりまえ」が崩れるとき 上記 ~ の理解の確認	12	地域の共生課題へのアプローチ	演習	事後学修 演習終了後、地域の共生課題に関する課題レポートを提出する		13	資料検索	14	グループ発表1の評価レポート	15	グループ発表2の評価レポート
回	授業内容	授業形態	事前・事後学修(学修課題)	担当																																																		
1	「異なる」そして「異文化」とは？	講義	事前学修 前回の講義資料を復習する。	結城																																																		
2	「異なる」「異文化」はどう生まれるのか？	演習																																																				
3	「異文化」への理解を探求する手法(理論編)1	講義																																																				
4	「異文化」への理解を探求する手法(理論編)2	演習																																																				
5	「異文化」への理解を探求する手法(実践編)1																																																					
6	「異文化」への理解を探求する手法(実践編)2																																																					
7	日本における多文化社会の成立基盤を考察する	演習	事前学修 グループ討議 に向け、文献を精読し整理する。																																																			
8	日本社会の「あたりまえ」を解く																																																					
9	「異なる」はどう生まれるのか																																																					
10	「異なる」こと・ものは扱われるのか																																																					
11	社会の「あたりまえ」が崩れるとき 上記 ~ の理解の確認																																																					
12	地域の共生課題へのアプローチ	演習	事後学修 演習終了後、地域の共生課題に関する課題レポートを提出する																																																			
13	資料検索																																																					
14	グループ発表1の評価レポート																																																					
15	グループ発表2の評価レポート																																																					
自己学修時間	60時間																																																					
評価方法	毎時のリアクションペーパー(60%) 課題レポート(40%)によって評価する。																																																					
教科書	結城恵『幼稚園で子どもはどう育つか』 有信堂高文社																																																					
参考書 参考文献等	授業時に適宜紹介する。																																																					
オフィスアワー	講義前後/場所：非常勤講師	連絡先																																																				
履修要件	特になし																																																					
備考	【重要】講義は、水曜・限2コマの原則隔週を予定。初回の講義時(4月11日)に、開講日を提示する。																																																					

科目区分	教養教育科目 文化と生活			聴講	可
授業科目名	歴史学の変化と発展	科目履修	可	単位互換	可
科目番号	A01006	クラス番号	C1(学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次 後期semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	小林龍彦	そ の 他	特になし		
担当教員	小林龍彦				
授業の概要	歴史とは、人類社会の過去における変遷・興亡のありさまである。また、歴史=Historyと言う表現にあらわれるように、従来の歴史に関する書物は、男性しかもそのときの権力者の意図を反映して編纂されたという特徴を持つ。この授業においては、歴史学の方法とその展開への理解を通して歴史とは何か、歴史学とはどのような学問なのかを考えながら、現在の歴史学が抱える諸課題を学習する。また、真理に近づく方法としての研究のあり方について関心を高める。				
目的 目 標	目的: 広汎な知識体系への関心を喚起し、幅広い教養と豊かな人間性の涵養を図るとともに、専門教育に必要な基礎的学力、思考力ならびに表現力を修得する。 目標: 歴史は人間の創造活動の所産であり、過去の事実が現在を生じさせている。その過去を読み解く手段である史料の見方や分析法の学修から真実の姿を見る眼を養う。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	歴史学を学ぶにあたって	講義	事前学修：前回の講義内容を復習する。	小林龍彦
	2	歴史とはなにか			
	3	歴史と歴史学の意味			
	4	用語「歴史」の誕生から			
	5	歴史叙述のはじまり(1) - 『歴史』を読む			
	6	歴史叙述のはじまり(2) - 『史記』を読む			
	7	歴史を見る眼とは			
	8	歴史事実の取舍選択問題			
	9	学問としての歴史学とは			
	10	史料探訪・発見・利用について			
	11	史料を見ること・読むこと			
	12	史料批判とは			
	13	日本科学史研究の事例から(1) - 江戸時代の禁書政策について			
	14	日本科学史研究の事例から(2) - 江戸時代における西洋学術の受容について			
	15	講義を振り返って			
自己学修時間	60時間				
評価方法	講義終了後の筆記試験 100%。				
教科書	指定なし / 講義にて別途資料を配付する。				
参考書 参考文献等	福井憲彦『歴史学入門』(岩書店、2006年)、岡田英弘『歴史とはなにか』(文芸春秋、平成17年)				
オフィスアワー	講義前後 / 場所：非常勤講師室	連絡先			
履修要件	特になし				
備考	特になし				

科目区分	教養教育科目 個人と社会			聴講	可
授業科目名	個人と集団		科目履修	可	単位互換
科目番号	A02001	クラス番号	C1(学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次)	前期 Semester	単 位	2 単位	30 時間
科目責任者	坂本 祐子		そ の 他		
担当教員	坂本 祐子				
授業の概要	<p>集団とは、特定の共同目標を掲げ相互行為を行っている複数の人々の社会的な結びつきである。また、個人は集団に属することによって、単独では実現できない目標を実現し、欲求を充足できる。一方、集団には、目標達成を囿ろうとするあまり、社会的分業関係から逸脱して社会関係を混乱させたり、個人を拘束し抑圧する側面がある。この授業においては、現代社会における個人と集団に関わる諸問題を検討し、この過程をとおして、集団及びその集団を構成する個人が持つ多様な価値観の存在を理解する。また、講義の他、セミナー形式の授業形態も取り入れ、集団の中で他者と相互行為を展開しつつ主体的に役割を遂行するための基礎的態度を学習する。</p>				
目的 目 標	<p>本講義では、授業の概要に掲げた「個人と集団」の関係における集団を「家族」と具体化して考察する。</p> <p>【目的】学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する</li> <li>2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる</li> <li>3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる</li> </ol>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	「個人と集団」とは 講義の目的と目標および学修方法について	講義	<p>&lt;事前学修&gt; 毎日新聞を読むことを習慣化し、社会的課題に対して、自分の見解を明らかにできるよう整理する。</p> <p>&lt;事後学修&gt; 講義内のテーマに関して興味をもったこと、疑問に思ったことについて、文献を精読し、整理する。</p>	坂本
	2	家族をとらえる(1)近代家族の誕生と特徴、日本における家族の近代化、民法における家族			
	3	家族をとらえる(2)家族と世帯、世帯の動向、家族周期、家族の発達と個人のライフコース			
	4	家族の機能(1) 近代家族が担ってきた基本機能=生活保障			
	5	家族の機能(2) 家族の個人的機能・社会的機能			
	6	家族をめぐる制度と民法 “夫婦別姓”とはどういう問題か			
	7	家族のつながり(1) 家族のつながりの変化と現状 家族行動の個別化			
	8	家族のつながり(2) 家族のつながりの変化による影響 子育て負担の偏り			
	9	近代家族の基本概念とその弊害			
	10	児童虐待			
	11	社会制度と家族			
	12	労働環境の変化と家族			
	13	ワーク・ライフ・バランス(1) ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮			
	14	ワーク・ライフ・バランス(2) 家庭責任をもつ人の仕事への支援			
	15	ポスト近代家族 これからの家族のあり方とその支援			
自己学修時間	60時間				
評価方法	定期試験(70%)と、講義内に実施する課題(30%)を合わせて評価する				
教科書	指定なし/ 講義にて別途レジュメや資料を配布				
参考書 参考文献等	早坂裕子他編(2010)『社会学のつばさ 医療・看護・福祉を学ぶ人のために』ミネルヴァ書房 岩間暁子他著(2015)『問いからはじめる家族社会学』有斐閣ストゥディア				
オフィスアワー	講義前後/場所: 非常勤講師室	連絡先			
履修要件	特になし				
備考	授業中の私語は厳禁です				



科目区分	教養教育科目 個人と社会			聴講	可
授業科目名	人間と職業	科目履修	可	単位互換	可
科目番号	A02002	クラス番号	C1(学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	2年次 後期 Semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	石井幸夫	そ の 他			
担当教員	石井幸夫				
授業の概要	人間の普遍的営みとしての労働の意義を明らかにし、専門職の特徴とその定義の変遷を学習する。また、人間と職業、職業を通じた社会への貢献、職業決定のプロセスに関する理論を学習し、社会学的研究方法や社会学的観点からの現象への迫り方を理解する。				
目的 目 標	<p>(目的) 女性にとっての労働の意味がどう変遷してきたかを明らかにすることによって、人間にとっての労働とは何か、そしてこの問題に社会学はどのようにアプローチするのかを理解する。</p> <p>(目標) 戦後高度経済成長期(5.60年代から70年代半ばまで)における女性の社会的あり方から説き起こして、これが高度経済成長期以降、70年代半ばから90年代半ばまで、さらに90年代半ば以降、どのように変化していくのかを、その時代の社会状況、および人々の様々な意識のあり方を踏まえて理解し、さらにここから浮かび上がる現代的労働概念の特徴を理解する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修(学修課題)	担当
	1	イントロダクション～労働とは何か?	講義	授業進度に応じて、ハンドアウトを見て予復習をして下さい。	石井
	2	50-60年代; 家族概念の変化について 1.人口要因 1)人口爆発、2)出生力転換1(50年代の少子化)			
	3	2.経済要因 1)人口ボーナス、2)高度経済成長 3.家族革命 1)家族概念の転換、2)まとめ			
	4	資料映像視聴			
	5	70-80年代; 女性労働概念の変化～女性労働力率の上昇について 1.労働市場メカニズム; 消費社会化 1)労働需要サイド			
	6	2)労働供給サイド、3)まとめ			
	7	2.意志決定メカニズム 0)前提、1)「夫の所得」(1)(ダグラス-有沢の法則、同類婚)			
	8	2)「夫の所得」(2)(学歴と労働力率、格差社会化)			
	9	2)「介護の要請」(1)(子供概念の変遷、エンゼル係数、少年非行の転換)			
	10	2)「介護の要請」(2)(出生力転換2; 現代の少子化)			
	11	2)「介護の要請」(3)(出生力転換2; 少子化対策の問題性)			
	12	3)まとめ			
	13	90年代以後現代; 新しい労働概念について 1.現代の労働市場メカニズム; グローバル化			
	14	2.まとめ; 新しい労働概念 1)労働のボランティア化			
15	2)まとめ				
自己学修時間	60時間。				
評価方法	1; 期末試験(70%)、2; 中間試験(11月中を予定)(30%)、総点100点。3; 以下の行為は総点100点からの減点。欠席1回8点減点、授業内提出物(リアクションペーパー、レポート)不提出、内容不備1回5点減点、目に余る爆睡、携帯使用、私語など1回8点減点。				
教科書	ありません。代わりに、ハンドアウト(講義概要)を配布します(要ダウンロード)。				
参考書 参考文献等	適宜指示します。参考資料をネット上からダウンロードする形で配布します。				
オフィスアワー	講義前後/場所: 非常勤講師室	連絡先			
履修要件	なし。				
備 考	<p>1; 初回授業で、授業に必要な資料、ハンドアウトのダウンロード法等を含め、詳細な予定表、履修上の注意をマニュアルとして配布しますから、'短時間でも'必ず出席して下さい。どうしても欠席する場合は、事前に greenartifact アットマーク gmail.com(アットマーク=@)に学籍番号、氏名を書いてメールして下さい。</p> <p>2; ハンドアウト、資料をダウンロード、印刷する必要があります。</p> <p>3; リアクションペーパー、レポートの提出にはメールを使用します。</p>				

科目区分	教養教育科目 個人と社会			聴講	可
授業科目名	法と正義	科目履修	可	単位互換	可
科目番号	A02003	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次 後期セメスター	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	小林 正士	そ の 他			
担当教員	小林 正士				
授業の概要	人間社会における法律の起源と役割、正義とは何か、正義と法律とはどのような関連があるのかを学習し、憲法及びわが国の法律が国民に保障する基本的人権を理解する。				
目的・目標	<p>[目的] 目的は、以下の三つである。第一に、現代日本の国家、国民精神、正義、法律とは、いかにあるべきか、ということ、広い視野から理解し、関心を持つこと。第二に、そのために、法的思考のあり方、特に、憲法における法的思考を理解すること。第三に、日本国憲法における基本的人権の構造及びその意義を理解し、説明できること。以上である。</p> <p>[目標] 法学における共和主義（市民的徳）及び立憲主義（基本的人権）の意義を自覚することを目標とする。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	序章(1)法学とはどのような学問か。	講義	【事前学習】 日々日常から国内情勢、国際情勢に関心をもって講義に参加すること。	小林
	2	(2)自由と法、独立と法との関連について。			
	3	第一章「憲法と国家」(1)国家の構造について。			
	4	(2)共和主義について。			
	5	(3)立憲主義について。			
	6	(4)国家の構造と憲法の構造。			
	7	(5)憲法の構造について。			
	8	第二章「憲法と国民」(1)国民の三類型。			
	9	(2)憲法と国民精神との関連。			
	10	第三章「日本国憲法論」(1)憲法制定史①			
	11	(2)憲法制定史②			
	12	(3)基本的人権の図式①			
	13	(4)基本的人権の図式②			
	14	(5)基本的人権の図式③			
15	終章「市民法学（法と正義、自由）、共和主義、立憲主義」についてのまとめ。				
自己学修時間	60時間				
評価方法	講義終了後の試験（100%）。論述式の筆記試験により評価する。				
教科書	篠原敏雄『市民法学の輪郭』（勁草書房）				
参考書 参考文献等	篠原敏雄『市民法学の基礎理論』（勁草書房） 篠原敏雄『市民法学の可能性』（勁草書房） その他の参考文献等は、授業時に指示する。				
オフィスアワー	講義前後／場所：非常勤講師室	連絡先			
履修要件	特になし。				
備考	授業内容と順番は変更することがある。				

科目区分	教養教育科目 個人と社会			聴講	可
授業科目名	倫理と道徳	科目履修	可	単位互換	否
科目番号	A02004	クラス番号	C1(学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次(2年次) 前期セメスター	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	森川 功	そ の 他			
担当教員	森川 功				
授業の概要	倫理学とは、社会的存在として人間間における共存の規範・原理を考え、追求する学問である。この授業においては、倫理の原理とは何か、倫理と道徳とはどのような違いがあるかを学習し、倫理的原理に関する思想の多様性を理解する。また、この過程を通して、人間社会における倫理的行動を規定する諸要素を理解する。				
目 的 標	目的：具体的な事案が倫理的に正当化されるか否かについて論じる方法を学ぶ。 目標：1. 倫理と道徳との差異を理解する。 2. 基本的な倫理原則について説明できる。 3. 倫理が時代により変化し得るものであること(したがって議論が重要であること)を理解する。 4. 特定の事案の倫理的妥当性を分析する場合には道徳や法(法律)も重要な役割を果たし得ることを理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修(学修課題)	担当
	1	倫理と道徳との差異、数々の事件	講義	事前学修： 配布したプリントを精読する。  事後学修： 他の履修者と討論を行い、レポート課題を提出する。	森川
	2	倫理理論：義務尊重主義(Deontologism)、結果尊重主義(Consequentialism)、他			
	3	基本倫理原則：侵害回避(Nonmaleficence)の原則			
	4	基本倫理原則：恩恵(Beneficence)の原則			
	5	基本倫理原則：自律(Autonomy)の原則			
	6	基本倫理原則：公正(Justice)の原則			
	7	インフォームド・コンセント(Informed Consent)			
	8	具体的な事案の提示と解説(1)			
	9	具体的な事案の提示と解説(2)			
	10	具体的な事案の提示と解説(3)			
	11	具体的な事案の提示と解説(4)			
	12	具体的な事案の提示と解説(5)			
	13	具体的な事案の提示と解説(6)			
	14	具体的な事案の提示と解説(7)			
15	総括				
自己学修時間	60時間				
評価方法	レポート(100%) + 講義における質疑応答				
教科書	使用しない。プリントを配布する。				
参考書 参考文献等	講義中に必要に応じて適宜指示をする。				
オフィスアワー	火曜日/15:45~17:15/研究室	連絡先	m130@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	特になし				

科目区分	教養教育科目 個人と社会			聴講	可
授業科目名	社会と経済	科目履修	可	単位互換	可
科目番号	A02005	クラス番号	C1(学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 前期セメスター	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	菅野英機	そ の 他			
担当教員	菅野英機				
授業の概要	経済とは、人間の共同生活の基礎をなす財・サービスの生産・分配・消費の行為・過程並びにそれを通じて形成される人と人との社会関係の総体である。この授業においては、経済に関する学問である経済学の起源と発展過程を学ぶ。また、経済学的観点から人間と社会関係を研究する意義を理解する。				
目的 目 標	(目的) 幅広く経済社会を理解し、さらに医療と市場経済の関連を理解すること。 (目標) 幅広い知識と見識を備えた医療テクノロジストとして活躍できる人材を目指す。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	3つの社会システムと経済の歴史 強制システム・交換システム・統合システム	講義	講義の内容について次週に小テストを行う。  小テストをしなかった講義に関して、授業内容についてのレポートを次週に提出する。	菅野
	2	交換・市場・価格・所得			
	3	貨幣の発生と役割			
	4	産業革命と市民社会の成立・アダム・スミス 発達した市場経済の成立			
	5	アダム・スミスと国富論・道徳情操論 分業と経済発展、利己心と社会の厚生			
	6	市場の限界と経済・経済政策 失業・所得格差			
	7	市場の限界と経済・公共政策 日照・公害			
	8	市場の限界と経済・公共政策 売春・麻薬・高齢者問題			
	9	市場の限界と経済・公共政策 インフレーション・資源配分・公共財			
	10	医療需要と補助金 医療サービスの価格弾力性			
	11	医療の特性・伝染病の外部性 特殊平等性・不完全情報・不完全競争			
	12	医療保険 日本とアメリカ			
	13	これからの経済社会の変化 雇用形態・市場			
	14	これからの経済社会の変化 知識社会			
15	これからの経済社会の変化 テクノロジストが中心の社会				
自己学修時間	60時間				
評価方法	授業中に小テストを5～8回行い、レポートと合計し、小テスト(60%)とレポート(40%)で評価する。				
教科書	特になし				
参考書 参考文献等	参考書と参考文献は多岐に渡るため授業中に必要に応じて示す。				
オフィスアワー	講義前後/場所: 非常勤講師室	連絡先			
履修要件	特になし				
備 考	聴講生も小テストは学力向上のため受けて下さい。				

科目区分	教養教育科目 個人と社会			聴講	可
授業科目名	心の機能と構造	科目履修	可	単位互換	可
科目番号	A02006	クラス番号	C1(学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 後期semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	加藤昌弘	そ の 他			
担当教員	加藤昌弘				
授業の概要	人の心の働きに関する学問としての心理学は、精神または精神現象についての問いかけから始まった。19世紀以降その研究方法には物理学・生理学などの成果を基礎とした実験的方法が取り入れられ、実証的科学として成立した。この授業においては、心理学の成立過程と発展過程を学ぶ。また、心理学の研究成果を概観し、心の働きを模索するための方法や学的体系の特徴について理解する。				
目 的 標	<p>目的：人間全体を直接の研究対象とし、心の諸相やその発達を概観するとともに、個人と集団との関係についても学びながら、人間を社会的存在として捉えられるようにする。</p> <p>目標：1. 心の持つ基本的な仕組みと働きについて理解する。  2. 心の発達をライフサイクルの視点から捉えられるようにする。  3. 社会的存在としての人間を心理学的視点から考えられるようにする。  4. 学修した内容を将来の医療臨床に活用できるようにする。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修(学修課題)	担当
	1	心とは何か 近代心理学の成立史	講義	<p>&lt;事前学修&gt; 配布資料の指定箇所を読んでおくこと。</p> <p>&lt;事後学修&gt; 指定された教材を使ってその日の学修内容を確認し、整理しておくこと。</p>	加藤
	2	関係性の科学とは何か 心理学の考え方			
	3	心の発達とは何か 発達課題と発達段階			
	4	生涯発達心理学 代表的な発達理論			
	5	生涯発達心理学 乳幼児期と母子関係			
	6	生涯発達心理学 児童期と社会性の発達			
	7	生涯発達心理学 思春期と青年期			
	8	生涯発達心理学 中年期とその危機			
	9	生涯発達心理学 高齢期とその課題			
	10	各論 知覚の心理			
	11	各論 学修・記憶の心理			
	12	各論 動機づけ・感情の心理			
	13	各論 パーソナリティの記述と調べ方			
	14	各論 知能の構造と測定			
15	各論 人間関係と集団				
自己学修時間	60時間				
評価方法	期末試験(筆記・持込不可)...70%、「フィードバックシート」の記入(15回)...30% 15回の講義等の後に実施する試験日時は別途指定する。				
教科書	二宮克美・編著:ベーシック心理学 第2版 医歯薬出版 2016				
参考書 参考文献等	子安増生・編著:心理学 勁草書房 2016 鹿取廣人他・編:心理学 第5版 東京大学出版会 2015 下山晴彦・編:よくわかる臨床心理学 改訂新版 ミネルヴァ書房 2009 皆藤草・編:よくわかる心理臨床 ミネルヴァ書房 2007				
オフィスアワー	講義前後/場所:非常勤講師室	連絡先			
履修要件	特になし				
備 考	次回講義する内容をまとめた印刷教材を授業の最後に配布するが、後日配布はしないので、必ずそのときに受領すること。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション		聴講	否	
授業科目名	英語 I		科目履修	否	
科目番号	A03001	クラス番号	R 1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年前期 Semester	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	鶴生川 恵美子	そ の 他	看護学部とは別内容		
担当教員	鶴生川 恵美子				
授業の概要	英語で提供される文字情報を活用するための基礎的能力を習得する。また、世界の共通語としての英語の発展の経緯、その言語学的特徴を学ぶ。これらの過程を通して、異なる文化及び自国の文化を尊重する態度を学習する。				
目的 目 標	<p>目的：基礎的英語表現を言語使用の目的に合わせて総合的に学修する。</p> <p>目標：1. 既習の英語能力の向上とともに、異文化についての関心を高め、自己表現や批判的能力の向上を目指す。</p> <p>2. 臨床現場で活用可能な看護師と患者との会話表現及び病状や病名についての基礎的な英語表現を習得する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修(学修課題)	担当
	1	Introduction	演習	事前学修：本文中の単語や語句の確認及び、内容把握をしておく。  事後学修：復習を行い、疑問点を確認する。課題がある場合は、期限を守り提出できるよう取り組む。	鶴生川
	2	Unit 1 Body Parts (人体各部) Unit 1 Traditions			
	3	Unit 2 Musculoskeletal System (筋骨格系) Unit 1 Traditions			
	4	Unit 3 Circulatory System (循環器系) Unit 2 What's Playing?			
	5	Unit 4 Respiratory System (呼吸器系) Unit 2 What's Playing?			
	6	Unit 5 Digestive System (消化器系) Unit 3 Spending Habits			
	7	Unit 5 Digestive System (消化器系) Unit 3 Spending Habits			
	8	Mid-term exam			
	9	Unit 6 Brain, Nervous System and Sensory System (脳・神経・感覚系) Unit 4 Our Heroes			
	10	Unit 6 Brain, Nervous System and Sensory System (脳・神経・感覚系) Unit 4 Our Heroes			
	11	Oral Presentation (Medical conversation) Unit 5 It's Mystery			
	12	Unit 10 BLS and ALS (一次救命処置と二次救命処置) Unit 5 It's Mystery			
	13	Unit 10 BLS and ALS (一次救命処置と二次救命処置) Unit 7 Visions of the Future			
	14	Unit 11 Rehabilitation (リハビリテーション) Unit 8 The Choice We Make			
15	Unit 11 Rehabilitation (リハビリテーション) Unit 9 Watch Out				
自己学修時間	30時間				
評価方法	Assignments & Quizzes 10% Oral Presentation 20% Written Exams (Mid-term exam & Final exam) 70%				
教科書	(上段) : <i>English for Healthcare Professionals Because We Care</i> by Maki Inoue/ Tdashi Ihara (CENGAGE Learning) (下段) : <i>Uncover 2</i> by Ben Goldstein & Ceri Jones (CAMBRIDGE U. P.)				
参考書 参考文献等	新英和中辞典・リーダーズ英和辞典(研究社) ステッドマン医学大事典(メディカルビュー社)				
備考	進度に応じて Unit の変更もある。				
オフィスアワー	金曜日/10:40~12:10/研究室	連絡先	ubuemiko@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	進度に応じて Unit の変更もある。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語 I	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03001	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年後期セメスター	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	鶴生川恵美子	そ の 他			
担当教員	鶴生川恵美子				
授業の概要	英語で提供される文字情報を活用するための基礎的能力を習得する。また、世界の共通語としての英語の発展の経緯、その言語学的特徴を学ぶ。これらの過程を通して、異なる文化及び自国の文化を尊重する態度を学習する。				
目的 目 標	<p>目的：基礎的英語表現を言語使用の目的に合わせて総合的に学修する。</p> <p>目標：1. 既習の英語能力の向上とともに、異文化についての関心を高め、自己表現や批判的能力の向上を目指す。</p> <p>2. 臨床現場で活用可能な看護師と患者との会話表現及び病状や病名についての基礎的な英語表現を習得する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	Introduction	演習	事前学修：本文中の単語・語句の確認及び内容把握をしておく。  事後学修：单元ごとの復習を行い、疑問点を確認する。課題がある場合は、期限を守り提出できるよう取り組む。	鶴生川
	2	Awakenings (1) Research and Presentation (Medical Topic 1)			
	3	Awakenings (2) Research and Presentation (Medical Topic 1)			
	4	Awakenings (3) Research and Presentation (Medical Topic 2)			
	5	Awakenings (4) Research and Presentation (Medical Topic 2)			
	6	Awakenings (5) Research and Presentation (Medical Topic 3)			
	7	Awakenings (6) Research and Presentation (Medical Topic 3)			
	8	Mid-term exam			
	9	Review Research and Presentation (Medical Topic 4)			
	10	Awakenings (7) Research and Presentation (Medical Topic 4)			
	11	Awakenings (8) Research and Presentation (Medical Topic 5)			
	12	Awakenings (9) Research and Presentation (Medical Topic 5)			
	13	Awakenings (10) Research and Presentation (Medical Topic 6)			
	14	Awakenings (11) Research and Presentation (Medical Topic 6)			
	15	Awakenings (12) Research and Presentation (Medical Topic 7)			
自己学修時間	30時間				
評価方法	Assignments & Presentation 30% Written Exams (Mid-term exam& Final exam) 70%				
教科書	1. 映画化された <i>Awakenings</i> by Oliver Sacks のスクリプトを教材とする。 2. BBC NEWS からの医療や健康に関する英文記事。				
参考書 参考文献等	看護英和辞典 (医学書院) 新英和中辞典・リーダーズ英和辞典 (研究社) ステッドマン医学大事典 (メディカルビュー社)				
オフィスアワー	金曜日/10:40~12:10/研究室	連絡先	ubuemiko@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	進度に応じて Unit の変更もある。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語 II(英会話)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03002	クラス番号	C1・C2・C5・C6(学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次後期(C1・C2)・2年次前期(C5・C6)	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	アレックス・フォン・アルテンシュタット	そ の 他			
担当教員	アレックス・フォン・アルテンシュタット				
授業の概要	英語圏で生活する人々と言語的コミュニケーションを図るための基礎的能力を習得する。英語表現を正しく聞き取る聴解力とともに、英語による発音の基礎を学習し、英語を通じた表現力を習得する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：医療現場における英語表現の聴解力、会話力の基礎技術の促進をはかる。 目標：1. 医療現場において使用される会話表現及び医療用語について学修し、ペアワークやグループワークを通じて会話力を高める。 2. グループによるプレゼンテーション発表を通して、英語の発信力の向上を目指しつつ、医療に対する関心を高める。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	<Meeting Colleagues> Introducing yourself to the team / Reading a nursing schedule	演習	事前学修：教科書又は図書館の教材を利用して基本的な知識や語彙を調べること。事後学修：学修した内容を週ごとに確認して復習する。	アレックス・フォン・アルテンシュタット
	2	<Meeting Colleagues> Meeting patients and their visitors / Escorting a patient for tests			
	3	<Nursing Assessment> Checking patient details / Describing symptoms			
	4	<Nursing Assessment> Assessing common childhood diseases / Taking a blood sample			
	5	<The Patient Ward> Monitoring body temperature / The patient ward			
	6	<The Patient Ward> Nursing duties / The qualities of a responsible nurse			
	7	<Food and measurements> Hospital food and beverages / Measurements and quantities			
	8	<Food and measurements> Helping a patient order from a hospital menu / Assisting the patient at mealtimes			
	9	<The Body and Movement> The body: limbs and joints / The body: torso and head			
	10	<The Body and Movement> Setting goals and giving encouragement / Documenting ROM exercises			
	11	<Medication> Medication routes and forms / Dosages and frequency			
	12	<Medication> Side effects; assisting patients with medication / Communicating with relatives by phone			
	13	<The Hospital Team> Moving and handling patients / Communicating with team members by phone			
	14	<The Hospital Team> Ordering supplies / Giving simple safety instructions			
	15	<Recovery and assessing the elderly> Caring for a patient in the recovery room / Removing sutures			
自己学修時間	15時間				
評価方法	Report 20% Class Presentation 20% Written Test (Mid-term Test 30% & Final Test 30%)				
教科書	English for Nursing 1 Ros Wright and Bethany Cagnol with Maria Spada Symonds / Pearson				
参考書 参考文献等	看護英和辞典(医学書院) 新英和中辞典・リーダーズ英和辞典(研究社) ステッドマン医学大事典(メディカルビュー社)				
オフィスアワー	講義前後/場所：非常勤講師室	連絡先			
履修要件	特になし				
備考	進度に応じて Unit の変更もある。				



科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語 (英会話)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03002	クラス番号	C3 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1, 2年後期 Semester	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	正田久実子	そ の 他			
担当教員	正田久実子				
授業の概要	英語圏で生活する人々と言語的コミュニケーションを図るための基礎的能力を習得する。英語表現を正しく聞き取る聴解力とともに、英語による発音の基礎を学習し、英語を通じた表現力を習得する。				
目的 目 標	目的：医療現場における英語表現の聴解力、会話力の基礎技術の促進をはかる。 目標：1. 医療現場において使用されうる会話表現及び医療用語について学修し、ペアワークやグループワークを通じて会話力を高める。 2. グループによるプレゼンテーション発表を通して、英語の発信力の向上を目指しつつ、医療に対する関心を高める。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	Introduction	演習	事前学修：テキストの本文を読み、単語や語句を確認し、会話の内容などを把握しておく。  事後学修：課題とされたスキットの暗記や、用語の復習を行う。	正田
	2	Unit1 : Lesson 1 Visit to the Clinic			
	3	Unit1 : Lesson 2 Injury and Pain			
	4	Unit1 : Lesson 3 Medical Examination			
	5	Unit1 : Lesson 3 Medical Examination			
	6	Unit2 : Lesson 3 Children's Health			
	7	Unit2 : Lesson 3 Children's Health			
	8	Mid-term exam			
	9	Unit3 : Lesson 1 Lifestyle-Related Disease			
	10	Unit3 : Lesson 1 Lifestyle-Related Disease			
	11	Oral Presentation (1)			
	12	Oral Presentation (2)			
	13	Unit3 : Lesson 2 Dietary Restrictions			
	14	Unit3 : Lesson 2 Dietary Restrictions			
15	Unit3 : Lesson 3 Dementia				
自己学修時間	15時間				
評価方法	Assignments & Oral Presentation 30% Written Exams (Mid-term exam & Final exam) 70%				
教科書	すぐに使える医療・看護英語 <i>English for Healthcare Communication</i> by Mami Inoue & others (MEDICAL VIEW)				
参考書 参考文献等	新英和中辞典・リーダーズ英和辞典(研究社)				
オフィスアワー	講義前後/場所：非常勤講師室	連絡先	授業内で説明する		
履修要件	特になし				
備考	定員25名程度とする。進度に応じてUnitの変更もある。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語 (英会話)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03002	クラス番号	C4 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1, 2年後期 Semester	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	鶴生川恵美子	そ の 他			
担当教員	鶴生川恵美子				
授業の概要	英語圏で生活する人々と言語的コミュニケーションを図るための基礎的能力を習得する。英語表現を正しく聞き取る聴解力とともに、英語による発音の基礎を学習し、英語を通じた表現力を習得する。				
目 的 標	目的：医療現場における英語表現の聴解力、会話力の基礎技術の促進をはかる。 目標：1. 医療現場において使用されうる会話表現及び医療用語について学修し、ペアワークやグループワークを通じて会話力を高める。 2. グループによるプレゼンテーション発表を通して、英語の発信力の向上を目指しつつ、医療に対する関心を高める。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	Introduction	演習	事前学修：テキストの本文を読み、単語や語句を確認し、会話の内容を把握しておく。  事後学修：課題とされたスキットの暗記や、用語の復習を行う。	鶴生川
	2	Unit1 : Lesson 1 Visit to the Clinic			
	3	Unit1 : Lesson 2 Injury and Pain			
	4	Unit1 : Lesson 3 Medical Examination			
	5	Unit1 : Lesson 3 Medical Examination			
	6	Unit2 : Lesson 3 Children's Health			
	7	Unit2 : Lesson 3 Children's Health			
	8	Mid-term exam			
	9	Unit3 : Lesson 1 Lifestyle-Related Disease			
	10	Unit3 : Lesson 1 Lifestyle-Related Disease			
	11	Oral Presentation (1)			
	12	Oral Presentation (2)			
	13	Unit3 : Lesson 2 Dietary Restrictions			
	14	Unit3 : Lesson 2 Dietary Restrictions			
15	Unit3: Lesson 3 Dementia				
自己学修時間	15時間				
評価方法	Assignments & Oral Presentation 30% Written Exams (Mid-term exam & Final exam) 70%				
教科書	すぐに使える医療・看護英語 <i>English for Healthcare Communication</i> by Mami Inoue & others (MEDICAL VIEW)				
参考書 参考文献等	新英和中辞典・リーダーズ英和辞典(研究社)				
オフィスアワー	金曜日/10:40~12:10/研究室	連絡先	ubuemiko@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備 考	定員 25 名程度とする。進度に応じて Unit の変更もある。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語 (英語表現)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03003	クラス番号	C1・C3 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年後期、2年前期 Semester	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	宮崎洋子	そ の 他			
担当教員	宮崎洋子				
授業の概要	大学入学までに身につけた英語力を基盤として、複雑な英語表現を習得し、伝えたい内容をより豊かに表現するための方法と、基本的な英語エッセイの書き方を学習する。また、これらの学習を通して、英語と日本語との表現の相違を学習し、文化の相違と言語的コミュニケーションの特徴を理解する。				
目 的 標	<p>目的：アカデミック・ライティングに必要な基本的な書き方や表現方法を学び、自分の表現したい内容を英語で書けるようにする。</p> <p>目標：1. アカデミックライティングを書くための基本的な決まりや技術を学修する。 2. 書くことに慣れ、より良い原稿を書き上げるための過程（修正や peer review）の重要性を理解する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	Introduction, Unit 1 Expository paragraphs	演習	予習として、各 Unit の内容を読んでおく。課題レポートをきちんと提出できるように積極的に取り組む。 また、毎週 200 語程度の journal を書いて提出してもらう。	宮崎
	2	Unit 1 Focus: topic sentences and paragraph format			
	3	Unit 1 One paragraph about yourself			
	4	Unit 4 Definition paragraphs			
	5	Unit 4 Focus: attention getters and avoiding repetition			
	6	Unit 4 A composition about an invention			
	7	Unit 5 Cause-and effect paragraphs			
	8	Unit 5 Focus: Introductory paragraphs and cause-and-effect words			
	9	Unit 5 A composition about and important event in your life			
	10	Unit 8 Comparison-contrast paragraphs			
	11	Unit 8 Focus: showing similarities and differences			
	12	Unit 8 An article about good and bad interview techniques			
	13	Unit 9 Persuasive paragraphs			
	14	Unit 9 Focus: types of supporting sentences			
15	Unit 9 A letter to yourself about your goals				
自己学修時間	15時間				
評価方法	Assignments 10% Journal Writing 40% Writing Assignments 50%				
教科書	Writing from Within 2 Second Edition, Curtis Kelly & Arlen Gargagliano, Cambridge Univ. Press				
参考書 参考文献等	英和中辞典 和英中辞典				
オフィスアワー	講義前後 / 場所：非常勤講師室	連絡先			
履修要件	特になし				
備 考	定員 15 名程度とする。 進度に応じて Unit の変更もある。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語 (英語表現)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03003	クラス番号	C2 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	2年 前期 Semester	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	鶴生川 恵美子	そ の 他			
担当教員	鶴生川 恵美子				
授業の概要	大学入学までに身につけた英語力を基盤として、複雑な英語表現を習得し、伝えたい内容をより豊かに表現するための方法と、基本的な英語エッセイの書き方を学習する。また、これらの学習を通して、英語と日本語との表現の相違を学習し、文化の相違と言語的コミュニケーションの特徴を理解する。				
目 的 標	<p>目的：アカデミック・ライティングに必要な基本的な書き方や表現方法を学び、自分の表現したい内容を英語で書けるようにする。</p> <p>目標：1. アカデミックライティングを書くための基本的な決まりや技術を学修する。 2. 書くことに慣れ、より良い原稿を書き上げるための過程（修正や peer review）の重要性を理解する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	Introduction	演習	事前学修：Unitの内容を読み、単語や語句の確認をしておく。また journal writing (200 字程度)を書いて提出する。  事後学修：出題された課題レポートを期限内に提出できるよう積極的に取り組む。	鶴生川
	2	Unit 1 Writing Paragraph Part1			
	3	Unit 1 Writing Paragraph Part2			
	4	Unit 1 Writing Paragraph Part3			
	5	Unit 1 Writing Paragraph Part4			
	6	Unit 1 Writing Paragraph Part4			
	7	Unit 2 Writing an Essay Part1			
	8	Unit 2 Writing an Essay Part2			
	9	Unit 2 Writing an Essay Part3			
	10	Unit 3 Paraphrasing, Summarizing and Citing Information Part 1			
	11	Unit 3 Paraphrasing, Summarizing and Citing Information Part 2			
	12	Unit 4 Writing a Research Essay part1			
	13	Unit 4 Writing a Research Essay part2			
	14	Unit 4 Writing a Research Essay part3			
15	Unit 4 Writing a Research Essay part3				
自己学修時間	15時間				
評価方法	Assignments 10% Journal Writing 40% Writing Assignments 50%				
教科書	<i>Academic Writing Skills 1</i> , Peter Chin and others, (Cambridge Univ. Press)				
参考書 参考文献等	英和中辞典 和英中辞典				
オフィスアワー	金曜日/10:40~12:10/研究室	連絡先	ubuemiko@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備 考	定員 15 名程度とする。進度に応じて Unit の変更もある。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語 IV (英語講読)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03010	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1, 2年 後期セメスター	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	鶴生川 恵美子	そ の 他			
担当教員	鶴生川 恵美子				
授業の概要	大学入学までに習得した基本的英語力を基盤に、さらに深く、正確に英文の内容を把握できるように多くの英文に触れる機会を持つようにする。英文読解力の向上とともに、さまざまな英文を通して表現された異文化についての理解を深める。				
目的 目 標	目的：多様なテーマについての英文を読むことによって、英語の読解力を高めるとともに、テーマに関する文化的背景、社会的問題にも関心を持ち視野を広げることを目指す。 目標：1. できるだけ多くの英文に触れ、英語の語彙能力を高めるとともに、より深く内容を理解できるよう読解力を高める。 2. 英文を読むことを通じて、書かれている内容のテーマについて関心を持ち、異文化理解を深める。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	Introduction & DVD	演習	事前学習：テキスト本文内の単語や語句について調べ、内容把握をしておく。  事後学習：復習を徹底し、疑問点を確認する。	鶴生川
	2	Chapter 1 Encephalitis Lethargica			
	3	Chapter 2 Bronx について			
	4	Chapter 3 Experimental Drugs			
	5	Chapter 4 L-dopa			
	6	Chapter 5 Amphetamine			
	7	Chapter 5 Amphetamine			
	8	Mid-term exam & DVD			
	9	Chapter 9 Euthanasia			
	10	Chapter 10 US Psychiatric Institutions			
	11	Chapter 11 Parkinson's Disease			
	12	Chapter 12 Clinical Trials			
	13	Chapter 13 Neurological Infections			
	14	Chapter 14 Useful Medical Terminology			
15	Chapter 14 Useful Medical Terminology				
自己学修時間	15時間				
評価方法	Assignments & Presentation 30% Written Exams (Mid-term exam & Final exam) 70%				
教科書	<i>Oliver Sack's Awakenings</i> 「レナードの朝」で学ぶ医療問題とクリティカル・シンキング 平井清子編著 (NAN'UN-DO)				
参考書 参考文献等	英和中辞典 ステッドマン医学大辞典				
オフィスアワー	金曜日/10:40~12:10/研究室	連絡先	ubuemiko@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備 考	定員 30名程度とする。進度に応じて Unit の変更もある。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語 IV (英語講読)		科目履修	否	単位互換
科目番号	A03010	クラス番号	C2 (学部合同)		
授業形式	演習		必修選択区分	選択	
開講時期	1年 後期セメスター		単 位	1単位 30時間	
科目責任者	鶴生川 恵美子		そ の 他		
担当教員	鶴生川 恵美子				
授業の概要	大学入学までに習得した基本的英語力を基盤に、さらに深く、正確に英文の内容を把握できるように多くの英文に触れる機会を持つようにする。英文読解力の向上とともに、さまざまな英文を通して表現された異文化についての理解を深める。				
目的 目 標	<p>目的：多様なテーマについての英文を読むことによって、英語の読解力を高めるとともに、テーマに関する文化的背景、社会的問題にも関心を持ち視野を広げることを目指す。</p> <p>目標：1. できるだけ多くの英文に触れ、英語の語彙能力を高めるとともに、より深く内容を理解できるよう読解力を高める。</p> <p>2. 英文を読むことを通じて、書かれている内容のテーマについて関心を持ち、異文化理解を深める。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	Introduction	演習	事前学修：担当グループは本文の要約や語彙等をまとめたレジメを用意して発表ができるように準備する。担当ではない学生も、単語や語句について確認し、本文の内容把握をしておく。	鶴生川
	2	Unit 1 Stress and Anxiety			
	3	Unit 2 Vitamins and Supplements			
	4	Unit 3 Alzheimer's			
	5	Unit 4 Music Therapy			
	6	Unit 5 Laughter as Medicine			
	7	Unit 6 Robotic Surgery			
	8	Mid-term exam			
	9	Unit 7 Safe Anesthetics			
	10	Unit 8 Physical Therapy			
	11	Unit 9 Cosmetic Surgery			
	12	Unit 10 Vaccine Availability			
	13	Unit 11 Sae Blood and AID Prevention			
	14	Unit 12 The Visible Human Project			
15	Unit 12 The Visible Human Project				
自己学修時間	15時間				
評価方法	Assignments & Presentation 30% Written Exams (Mid-term exam & Final exam) 70%				
教科書	<i>English for Health and Medicine</i> by John S. Lander (ASAHI PRESS)				
参考書 参考文献等	英和中辞典 ステッドマン医学大辞典				
オフィスアワー	金曜日/10:40~12:10/研究室	連絡先	ubuemiko@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備 考	定員30名程度とする。進度に応じてUnitの変更もある。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	英語 IV (英語講読)	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03010	クラス番号	C3 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	2年 前期セメスター	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	鶴生川 恵美子	そ の 他			
担当教員	鶴生川 恵美子				
授業の概要	大学入学までに習得した基本的英語力を基盤に、さらに深く、正確に英文の内容を把握できるように多くの英文に触れる機会を持つようにする。英文読解力の向上とともに、さまざまな英文を通して表現された異文化についての理解を深める。				
目的 目 標	<p>目的：多様なテーマについての英文を読むことによって、英語の読解力を高めるとともに、テーマに関する文化的背景、社会的問題にも関心を持ち視野を広げることを目指す。</p> <p>目標：1. できるだけ多くの英文に触れ、英語の語彙能力を高めるとともに、より深く内容を理解できるよう読解力を高める。</p> <p>2. 英文を読むことを通じて、書かれている内容のテーマについて関心を持ち、異文化理解を深める。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	Introduction	演習	事前学修：事前配布されたワークシートを参考に、本文を読み、単語や語句について調べ、内容把握をしておく。  事後学修：復習を徹底し、疑問点を確認する。	鶴生川
	2	Chapter1 The Curriculum			
	3	Chapter 2 The Syllabus (1)			
	4	Chapter 3 The Syllabus (2)			
	5	Chapter 3 The Syllabus (2)			
	6	Chapter 4 The Student			
	7	Chapter 5 The Orientation			
	8	Mid-term exam & Review			
	9	Chapter 6 The Classroom (1)			
	10	Chapter 7 The Classroom (2)			
	11	Chapter 8 The First Tuesday			
	12	Chapter 8 The First Tuesday			
	13	Presentation (1) The Second Tuesday~The Seventh Tuesday			
	14	Presentation (2) The Eighth Tuesday ~The Thirteenth Tuesday			
15	Chapter 9 The Fourteenth Tuesday				
自己学修時間	15時間				
評価方法	Assignments & Presentation 30% Written Exams (Mid-term exam & Final exam) 70%				
教科書	<i>Tuesdays with Morrie</i> by M Mitch Albom (BROADWAY BOOKS,1997) ワークシート及び参考資料を配布する。				
参考書 参考文献等	英和中辞典 ステッドマン医学大辞典 『モーリー先生との火曜日』別宮貞徳・訳(日本放送出版協会、1998) 普及版・『モーリー先生との火曜日』別宮貞徳・訳(NHK出版、2004)				
オフィスアワー	金曜日/10:40~12:10/研究室	連絡先	ubuemiko@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	定員30名程度とする。進度に応じてUnitの変更もある。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	中国語	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03004	クラス番号	C1(学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	2年次・(1年次) 後期セメスター	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	林 秀行	そ の 他			
担当教員	林 秀行				
授業の概要	中国語により表現された文学作品を鑑賞し、中国語の起源及びその発展の歴史を学習する。また、中国語による日常生活表現を学ぶとともに日本語と中国語との関係について理解する。				
目的 目 標	目的：中国語でのコミュニケーションに必要な中国語の基礎力を養成する。 目標：発音の習得、あいさつなどの簡単な会話と基礎文法を理解し修得する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	中国語を学ぶ意義。中国概説。スキルとしての外国語の学び方。中国語ローマ字表記(ピンイン)を学ぶ。発音練習。	講義・演習	教科書付帯のCDやインターネットを利用して中国語を耳にすること	林
	2	[発音 声調・基礎母音・子音1]実際に聴いて中国語の発音に触れる。中国語ローマ字表記(ピンイン)を学ぶ。発音練習。			
	3	[発音 複合母音・子音2]間違えやすい発音(1~10000)、自分の名前を中国語で言う。年月日と曜日を学ぶ。発音練習。			
	4	[基本文法1動詞述語文(S+V+O)]人称代名詞、指示代名詞、否定形、疑問文、連体修飾を学ぶ。発音練習。			
	5	[基本文法2二重目的語文(S+V+O+O)]量詞(数量詞)と名詞を学ぶ。			
	6	[基本文法3連動文(S+V+O+V+O)]「私は映画を観るのが好き」			
	7	[基本文法4形容詞述語文]省略疑問文、反復疑問文、選択疑問文を学ぶ。			
	8	集中的な聞き取り練習及び発音練習。ピンイン習熟度テスト			
	9	[基本文法5所在を表す「在」]位置に関する言葉を学ぶ。			
	10	[基本文法6存在を表す「有」]数量に関する言葉を学ぶ。			
	11	[基本文法7時制と時態]「動作の時点」と「動作の時間量、回数」を学ぶ。			
	12	[基本文法8主述述語文(主語が2つある文)]「群馬は夏は暑い」			
	13	[基本文法9助動詞]意思、可能性の表現、語気を表す助詞を学ぶ。			
	14	復習と集中的な聞き取り練習と会話練習			
	15	復習と集中的な聞き取り練習と会話練習。			
	毎回、発音練習と会話練習を行います。恥ずかしがる気持ちは、コミュニケーションの妨げになります。無意味に恥ずかしがる傾向のある人は、自らの性向を理解し、語学を通して克服していきましょう。				
自己学修時間	30時間				
評価方法	試験100%				
教科書	医療系学生のための初級中国語 白帝社				
参考書 参考文献等	必要に応じプリントを用意する。				
オフィスアワー	講義前後/場所：非常勤講師室	連絡先			
履修要件	特になし				
備考	定員60人				



科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	フランス語	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03005	クラス番号	C1(学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 前期semester	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	田口宏明	そ の 他			
担当教員	田口宏明				
授業の概要	フランス語の起源と国際的な普及の現状を理解し、他の言語との比較検討を通して、その特徴を学習する。また、フランス語により表現された文学作品を鑑賞し、フランス語圏の文化の特徴や言語圏の異なる人々の生活とわが国の文化の違いなどを理解する。				
目 的 標	目的：フランス語の使い方、またフランスおよびフランス語圏の文化・社会についての理解を深める。 目標： <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 綴り字の読み方と数詞を覚える。</li> <li>2. 冠詞・形容詞などの性数一致に慣れる。</li> <li>3. 各時制の活用と用法を覚える。</li> <li>4. フランス語の簡単な文を読んで理解する。</li> <li>5. 他の言語と比較してフランス語の特徴と歴史を理解する。</li> </ol>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修(学修課題)	担当
	1	フランス語の起源と普及状況など 冠詞 数詞	講義・演習	毎回指示された学修範囲の復習と、次回の学修予定範囲を精読しておくこと。学修状況は小テストで確認する。	田口
	2	voilà, voici ; 動詞 être と avoir			
	3	c'est と ce sont			
	4	疑問文と否定文			
	5	第1群規則動詞 所有形容詞			
	6	不規則動詞 部分冠詞			
	7	il y a ; 形容詞			
	8	前置詞と冠詞の縮約 近接未来 近接過去			
	9	疑問代名詞 第2群規則動詞			
	10	過去分詞 受動態			
	11	直説法単純未来			
	12	疑問形容詞 指示形容詞			
	13	指示代名詞 直説法複合過去			
	14	目的語の人称代名詞			
15	さまざまな法と時制および既習事項のまとめ				
自己学修時間	30時間				
評価方法	毎回の小テスト(50%)と期末試験(50%)。				
教科書	指定なし。プリント等の形式で配布します。				
参考書 参考文献等	三省堂 クラウン仏和辞典、白水社 現代フランス語辞典、大修館 ジュネス仏和辞典、旺文社 プチ・ロワイヤル仏和辞典、小学館 プログレッシブ仏和辞典				
オフィスアワー	曜日 / 講義前後 場所 / 非常勤講師室	連絡先			
履修要件	特になし				
備考	NHKのラジオ講座の聴取、フランス語検定試験の受験をおすすめします。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	ポルトガル語		科目履修	否	単位互換
科目番号	A03006	クラス番号	C1(学部合同)		
授業形式	演習		必修選択区分	選択	
開講時期	2年次・(1年次) 後期セメスター		単 位	2単位 60時間	
科目責任者	東海林マコ賢		そ の 他		
担当教員	東海林マコ賢				
授業の概要	群馬県は、ブラジルとの交流が盛んな県である。かつて、群馬県からのブラジル移民は多く、平成8年には、その意向を受け、ブラジル政府から熱帯雨林を買い受け「アマゾン群馬の森」を作り、熱帯雨林の保護に乗り出した。また、ブラジルからの就業者も多く受け入れ、現在約1万6千人のブラジル人が生活している。ポルトガル語はブラジル国民の公用語であり、群馬県民にとって身近な外国語の一つである。また、ポルトガルは室町末期から江戸時代の日本文化に大きな影響を与えた国であり、ポルトガル語を由来とする外来語も多い。この授業においては、ポルトガル語の起源と発展の概要とともに、日本語文化への影響を学習する。また、ポルトガル語による日常生活表現を習得する過程を通して、ブラジルの歴史的背景を理解する。				
目的 目 標	目的：ポルトガル語で医療の専門的用語の知識を深めると共に、ポルトガル語での簡単な会話を身につける。 目標：学生一人ひとりが将来、学修したポルトガル語を職業で生かしながら役立てることができる。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	ポルトガル語の由来と文化について	演習 ・ 講義	毎回、学修課題を提示	東海林
	2	文法(1)アルファベット・アクセント・発音			
	3	数字と数え方/人間の体			
	4	文法(2)名詞・動詞			
	5	文法(3)医療用語			
	6	会話(1)病院/事故			
	7	文法(4)時間・曜日			
	8	会話(2)症状の訴え方			
	9	問診票の記入(産婦人科)			
	10	会話(3)理美容院でのやりとり			
	11	問診票の記入(泌尿器科・整形外科)			
	12	問診票の記入(耳鼻咽喉科)			
	13	ジェンダーに関する用語/歯医者と薬局			
	14	総復習			
15	総復習				
自己学修時間	30時間				
評価方法	筆記試験100%				
教科書	指定しない				
参考書 参考文献等	中萩エルザ：暮らしの医療用語辞典，2002，(株)インターナショナルプレスジャパン				
オフィスアワー	講義前後/場所：非常勤講師室	連絡先			
履修要件	特になし				
備 考	定員80名とする。履修希望者が定員を超えた場合は、抽選により履修者を決定する。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	韓国語	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03011	クラス番号	C1(学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 前期 Semester	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	櫻井 正明	そ の 他			
担当教員	櫻井 正明				
授業の概要	文字の成り立ちや発音を学習する。正しい発音を身に付けるために、発音変化の仕組みを学び発音練習を重ねていく。日常生活及び周辺の一一般的な素材に関する易しい文字を理解し、基本構文を日本語と対照しながら学び徐々に韓国語に馴染んでいく。DIALOGUE(対話)は映像で場面確認しながら練習し、雰囲気や話し言葉の特徴なども身につける。言葉を学ぶことは、その国の文化をも学ぶので韓国ドラマやK-POPからも韓国や韓国人の特徴、文化の共通点、相違点なども知り、学ぶ。(視聴覚教材なども用いる。)				
目的 目 標	目的：文化の共通点、相違点を言葉を通して理解し、学び、コミュニケーションをはかる。 目標：ハングル(文字)への違和感をなくす。韓国新聞、雑誌を読む。韓国映画を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	韓国語の語順、韓国語の文字、 韓国語の発音のポイント、反切表、母音	講義・ 演習	教科書に沿って授業をするので添付されたCDを欠かさず聞くこと	櫻井
	2	子音、激音、濃音			
	3	重母音、基本単語、数字の表現、月日			
	4	曜日、時間、人・家族の呼び方、 「こそあど」表現			
	5	子音字の名称と辞典の配列順序、 1「～です」、2「～ですか」			
	6	3「～ではありません」、フォーマル表現			
	7	4「～(し)ます/です」、5「～(し)ますか/ですか」			
	8	6前置形否定「～(し)ません/くない」			
	9	7後置形否定「～(し)ない/くない」			
	10	8「～(を)ください」、9「～(を)くださいますか」 10「～(は)いりません」			
	11	11「～してください」、12「～(を)してくれ ますか」、13「～(を)お願いします」			
	12	フォーマル表現、14「～したい」			
	13	15「～したいですか」、16「～したくない」、 17「～してもいいですか」			
	14	18「～(して)みてもいいですか」、 19「～(が)あります/います」			
	15	20「～(は)ありますか/いますか」、 21「～(は)ありません/いません」			
自己学修時間	30時間				
評価方法	中間試験 50%、期末試験 50%				
教科書	「韓国語会話 55の鉄則表現」櫻井 正明 監修(三修社) ISBN978-4-384-04296-2				
参考書 参考文献等	特になし				
オフィスアワー	講義前/非常勤講師室	連絡先			
履修要件	特になし				
備 考	テレビ・ラジオ講座を見聞きし、ハングル能力検定試験を受験することが望ましい				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	情報科学Ⅰ	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03007	クラス番号	R1 (診療放射線学部)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次 前期semester	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	佐藤哲大	そ の 他			
担当教員	佐藤哲大				
授業の概要	<p>社会の中で生活する人間は、多量のデータから必要な情報を取得し、意味解釈を加え、意思決定し、様々な情報を発信している。また、適切に情報を活用し、適切な意思決定を行うためには、情報メディアを活用し、情報を効率的に操作する能力（情報活用能力：メディアリテラシー）が重要となる。この授業においては、情報処理の基本を学習しながら、メディアリテラシーを主体とした情報技術(IT)の特徴を理解する。具体的にはパーソナルコンピュータの操作、ファイルの取り扱い、基本的なソフトウェアを活用した演習を行い、情報処理の原理・原則を理解し、その有効かつ適切な活用に必要な知識・技術・態度を学習する。</p>				
目的 目 標	<p>目的：情報と意思決定の関係やメディアリテラシーの重要性を理解する。          目標：インターネットサービスと情報セキュリティ、ICT 技術を活用したレポート作成とデータ解析についての基礎的素養を身につける。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	学内情報ネットワークサービスの概要(1)	講義・演習	事前学修 授業で扱う内容も含め、教科書に記載されている課題について自己学修する。 事後学修 授業の進行に応じて小テストおよびレポート課題を実施するので必ず提出すること。	佐藤
	2	学内情報ネットワークサービスの概要(2)			
	3	電子メールの仕組み			
	4	電子メールによるコミュニケーション			
	5	電子メールのマナー			
	6	迷惑メールとセキュリティ対策			
	7	インターネットと情報セキュリティ			
	8	情報の適切な利用(1)			
	9	情報の適切な利用(2)			
	10	インターネットコミュニケーション			
	11	ICT 技術を活用したレポート作成 (1) レポートを書く準備			
	12	(2) レポートの内容を考える			
	13	(3) レポートのための調査・研究			
	14	(4) インターネット情報検索			
	15	(5) レポートの構造を考える			
	16	(6) レポートの文章を書く			
	17	(7) レポートの文章を見直す			
	18	(8) レポートを仕上げる			
	19	ドキュメントコミュニケーション			
	20	表計算ソフトの基本 (1) 表計算ソフトを使う			
	21	(2) 表計算ソフトで計算する			
	22	(3) 表計算ソフトで高度な計算			
	23	(4) 表計算ソフトでデータの見える化			
	24	表計算ソフトによるデータ解析 (1) 統計解析の考え方			
	25	(2) 集団を代表する数字			
	26	(3) 集団の関連性を調べる			
	27	(4) 標本調査と点推定			
	28	(5) 分布モデルと区間推定			
	29	データ解析と情報			
	30	情報の利活用と情報科学			
自己学修時間	30時間				
評価方法	レポート課題等の提出状況および内容に基づく総合評価(100%)				
教科書	1. 考える伝える分かちあう情報活用力 noa 出版 2. 情報倫理ハンドブック noa 出版 3. マンガでわかる統計学 高橋信・トレンドプロ オーム社				
参考書 参考文献等	自ら考える 判断する 行動する 仮説 検証 noa 出版				
オフィスアワー	木曜日 / 14:00 ~ 16:00 / 研究室	連絡先	satote@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	授業以外でもコンピュータを日常的に活用するよう心がけること。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	情報科学	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03008	クラス番号	C1・C2(学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次 後期semester	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	佐藤哲大	そ の 他			
担当教員	佐藤哲大				
授業の概要	<p>パーソナルコンピュータの動画処理、音声処理のマルチメディア機能を用いると、様々な情報コンテンツが作成できる。インターネット社会においては、マルチメディアを用いた情報コンテンツを個人で作成し、Web page(ホームページ)として、自由に発信することが可能となる。また、研究発表の際には、マルチメディアを活用したプレゼンテーション能力が必要となる。この授業においては、図形処理、動画処理などの技術を活用したホームページ・プレゼンテーションの制作演習を通して、現代社会における情報の適正利用に関わる倫理、情報表現能力を学習する。</p>				
目的 目 標	<p>目的：マルチメディアによる情報表現の手法を理解する          目標：Web ページの作成・公開、プレゼンテーションを通じて情報発信の基礎的素養を身につける。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業 形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	情報科学の観点から見た情報発信と授業の目的	講義 ・ 演習	事前学修 授業で扱う内容 も含め、事前配布 資料に記載されて いる課題につ いて自己学修す る。 事後学修 授業の進行に応 じて課題を提示 するので必ず実 施すること。	佐藤
	2	情報メディアと情報発信の考え方			
	3	[Web ページ]World Wide Web と Web ページの仕組み			
	4	[プレゼンテーション]プレゼンテーションの役割と手段			
	5	[Web ページ]Web ページの公開			
	6	[プレゼンテーション]発表の組み立て			
	7	[Web ページ]ハイパーリンク			
	8	[プレゼンテーション]発表の設計			
	9	[Web ページ]Web ページの整形			
	10	[プレゼンテーション]視覚表現としての箇条書き			
	11	[Web ページ]Web ページの箇条書き			
	12	[プレゼンテーション] プレゼンテーションソフトの作図機能			
	13	[Web ページ]CSS による Web ページデザイン			
	14	[プレゼンテーション] 図解による説明			
	15	[Web ページ]CSS による細かいデザイン調整			
	16	[プレゼンテーション]スライドデザイン			
	17	[Web ページ] CSS の活用と Web ページデザイン			
	18	[プレゼンテーション]アニメーションによる演出			
	19	[Web ページ]Web ページの中の画像			
	20	[プレゼンテーション]発表前の仕上げ			
	21	[Web ページ] Web ページと著作権			
	22	[プレゼンテーション]発表の進め方			
	23	Web ページ、プレゼンテーションによる情報発信			
	24	プレゼンテーション演習(1)			
	25	プレゼンテーション演習(2)			
	26	プレゼンテーション演習(3)			
	27	プレゼンテーション演習(4)			
	28	Web ページ作成演習(1)			
	29	Web ページ作成演習(2)			
	30	Web ページ作成演習(3)			
自己学修時間	30時間				
評価方法	演習課題の実施状況及び内容(50%)、レポート等の提出状況及び内容(50%)				
教科書	指定なし(資料はスライドのハンドアウトを印刷して配布します。)				
参考書 参考文献等	考える伝える分かちあう情報活用力 noa 出版 自ら考える 判断する 行動する 仮説 検証 noa 出版				
オフィスアワー	木曜日 / 14:00 ~ 16:00 / 研究室	連絡先	satote@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	授業以外でもコンピュータを日常的に活用するよう心がけること。				

科目区分	教養教育科目 人間とコミュニケーション			聴講	否
授業科目名	情報科学	科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A03009	クラス番号	C1(学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	2年次・(1年次) 後期semester	単 位	2単位 60時間		
科目責任者	佐藤哲大	そ の 他			
担当教員	佐藤哲大				
授業の概要	コンピュータが情報を処理する場合、その処理過程を記述した計算手順(アルゴリズム)が必要となる。この授業においては、基本的なアルゴリズムであるソート法、探索法等を学習する。また、これを基盤として画像処理アルゴリズムの原理について学習する。さらにC言語、java言語などによる画像処理アルゴリズムのプログラミングの体験を通して、情報処理におけるプログラミングの実際と機能を学習する。				
目的	目的：プログラミング実習を通して情報処理のメカニズムを理解する。				
目標	目標：Java言語を用いてデータ処理を行うプログラムを作成する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	コンピュータとプログラミング	講義 ・ 演習	事前学修 授業で扱う内容 も含め、事前配布 資料に記載されて いる課題につ いて自己学修す る。 事後学修 授業の進行に応 じて課題を提示 するので必ず実 施すること。	佐藤
	2				
	3	プログラムの作成と実行			
	4				
	5	コンピュータにおける情報表現			
	6				
	7	コンピュータにおける数値計算			
	8				
	9	プログラムの流れを制御する(1)条件分岐			
	10				
	11	プログラムの流れを制御する(2)繰り返し処理			
	12				
	13	たくさんのデータをまとめて扱う(配列)			
	14				
	15	プログラムを分割する(関数)			
	16				
	17	関数の色々な使い方			
	18				
	19	他のプログラムを呼び出す			
	20				
	21	"モノ"指向のプログラミング (オブジェクト指向プログラミング)			
	22				
	23	クラスを使ったプログラミング			
	24				
	25	データの入力			
	26				
	27	データの出力			
	28				
	29	データを処理するプログラム			
	30				
自己学修時間	30時間				
評価方法	演習課題の実施状況および内容(50%)、レポート等の提出状況および内容(50%)				
教科書	特に指定しない				
参考書 参考文献等	やさしいJava 高橋麻奈 ソフトバンククリエイティブ				
オフィスアワー	木曜日/14:00~16:00/研究室	連絡先	satote@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	授業以外でもコンピュータを日常的に活用するよう心がけること。				

科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	否
授業科目名	生活と科学 (人文・社会科学と生活：哲学)	科目履修	可	単位互換	否
科目番号	A04001	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次(2年次) 後期semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	森川 功	そ の 他			
担当教員	森川 功				
授業の概要	科学、すなわち自然科学と捉えることが多いが、科学を広義に捉えた場合、人文科学、社会科学が含まれる。この授業においては、科学を広義に捉え、諸科学の基盤となる哲学を主題として、その成り立ちと展開を学習する。また、哲学の諸科学への影響と日常生活と哲学との関連を学習する。さらに「思考する」という人間生活に必須の活動と哲学の関係についても理解する。				
目 的 標	目的：哲学の歴史に関して教養を得る。 目標：1.物事に疑問を持ち、自分自身で深く考えるという習慣を身に着ける。 2.偉大な哲学者もやはり時代の子であることを理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修(学修課題)	担当
	1	古代哲学1：自然哲学	講義	毎回、学修課題を提示する。	森川
	2	古代哲学2：ギリシャ哲学、ソクラテス			
	3	古代哲学3：プラトン、アリストテレス			
	4	中世哲学1：神中心の哲学、アウグスティヌス			
	5	中世哲学2：トマス・アキナス			
	6	近代哲学1：ルネッサンス、宗教改革			
	7	近代哲学2：ベーコン、デカルト			
	8	近代哲学3：スピノザ、ロック			
	9	近代哲学4：ヒューム、ルソー			
	10	近代哲学5：カント、ヘーゲル			
	11	近代哲学6：ベンサム、ミル			
	12	近代哲学7：キルケゴール、マルクス			
	13	近代哲学8：ニーチェ			
	14	現代哲学1：フロイト、ヤスパーズ、他			
	15	現代哲学2：サルトル、他(総括)			
自己学修時間	60時間				
評価方法	レポート(100%) + 講義における質疑応答				
教科書	指定しない。				
参考書 参考文献等	講義中に必要に応じて適宜指示をする。				
オフィスアワー	火曜日/15:45~17:15/研究室	連絡先	m130@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	特になし				

科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	可
授業科目名	生活と科学 (人文・社会科学と生活:文学)		科目履修	可	単位互換
科目番号	A04002	クラス番号	C1(学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 後期セメスター		単 位	2単位 30時間	
科目責任者	案田順子	そ の 他			
担当教員	案田順子				
授業の概要	この授業においては、科学を広義に捉え、人文・社会科学を科学として位置づけた上で、人文科学の中でも、言語表現による芸術作品を研究する学問である文学を対象にその方法と特徴を学習する。また、人間の生活に対する文学的接近方法を学習し、芸術作品と生活との関連を文学的視点から理解し、文学の研究成果の日常生活への活用方法を学習する。				
目的 目 標	<p>目的：生きとし生けるものにとって永遠の課題である「生」と「死」の概念の多様性を古典および近代文学の代表作品によって感得し、命を預かる職業人としての多面的考察力の養成と職務の重責を再確認する。</p> <p>目標：1. 鴨長明・吉田兼好の死生観を「方丈記」・「徒然草」の口語訳文により解釈し、時代的・環境的、思想的差異により生じる概念の多様性を理解する。 2. 夏目漱石の死生観を「こころ」に描かれた[葛藤]と[殉死]をテーマに理解する。 3. 正岡子規の死生観を「病床六尺」に記された[病苦]と[家庭内看護]をテーマに理解し、漱石と死生観の差異と理由を確認する。 4. 個々の死生観を構築し、生きる意味を再確認する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	授業の目的・目標の理解 授業展開の方法と課題レポート 「死生観」を学ぶ目的・目標 「方丈記」「徒然草」に「死生観」を学ぶ意義 「こころ」「病床六尺」に「死生観」を学ぶ意義	講義	<事前学修> 次回の授業資料をよく読み、意味不明な語句の意味調べと、表現内容で理解しにくい部分、疑問に思う部分をあげておく。  <事後学修> 課題レポートを書くにあたり、授業内容の理解と提示したキーワードとの関連を確認する。	案田
	2	鴨長明の死生観と「方丈記」 長明の人となりと「方丈記」の時代背景 「方丈記」の表現描写の特徴 「方丈記」の文学的意義 鴨長明の死生観と「方丈記」			
	3				
	4				
	5	吉田兼好の死生観と「徒然草」 兼好の人となりと「徒然草」の時代背景 「徒然草」の表現描写の特徴 「徒然草」の文学的意義 兼好の死生観と「徒然草」			
	6				
	7				
	8	夏目漱石の死生観と「こころ」 漱石の人となりと「こころ」の執筆背景 「こころ」に描かれた[葛藤] 「こころ」に描かれた[殉死] 漱石の死生観と「こころ」			
	9				
	10				
	11				
	12	正岡子規の死生観と「病床六尺」 子規の人となりと「病床六尺」の執筆事情 「病床六尺」に記された[病苦] 「病床六尺」に記された[家庭内看護] 子規の死生観と「病床六尺」			
	13				
	14				
15	「生」と「死」への概念の多様性 鴨長明・吉田兼好の「生」と「死」への概念 夏目漱石・正岡子規の「生」と「死」への概念 「生」と「死」への概念の多様性と文学 個々の死生観の構築と、生きる意味の再確認				
自己学修時間	60時間				
評価方法	課題レポート(次回授業の初めに提出)30%、学期末試験70%				
教科書	指定なし/講義にて別途資料を配布する。				
参考書 参考文献等	特になし				
オフィスアワー	講義前後/場所：非常勤講師室	連絡先			
履修要件	特になし				
備考	「方丈記」「徒然草」について：高校時代までのような文法中心もしくは口語訳を課す授業は行わない。本文の下に口語訳文を配した資料を配布する。これは古文読解よりも内容把握と理解に重点を置くことによる。古典文法や解釈が不得手であった人にも、積極的に受講してもらいたい。難解語句の理解と知識の蓄積を促すために、手元にある電子辞書及び国語系辞書を持参することが望ましい。				



科目区分	環境と科学			聴講	可
授業科目名	生活と科学 (人文・社会科学と生活:政治学)		科目履修	可	単位互換
科目番号	A04003	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次 後期セメスター	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	片桐 庸夫	そ の 他			
担当教員	片桐 庸夫				
授業の概要	この講義においては、科学を広義に捉え、人文・社会科学を科学として位置付けた上で社会科学の中でも人類最古の科学の一つとされる政治学を対象に、その時代的変遷、方法と特徴、人間の生活と政治学との関係などを学習する。以上の学習を通して人間社会の秩序と政治の関係について理解する。				
目的	<p>目的)今日の日本は、憲法改正問題の例のように、政治的社会的に大きな転換期に直面し、私たちの生活にも大きな影響をもたらそうとしている。第二次世界大戦の敗北後、再出発した日本の原型をまず理解し、その上で、今何が変わろうとしているのかを理解する。</p> <p>目標)それにより、新聞、テレビ、インターネット等でユースや時事問題について一定の理解が可能になり、今後の日本の在り方や進路(例:憲法改正、集団自衛権、少子高齢化、性別分業役割、地方の過疎化等)について自分なりの考えや意見を持てるようになることにある。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修(学修課題)	担当
	1	戦後日本の歩みについて概観し、今日直面する転換期の意味、課題について理解する。	講義	第1-5回は、講義の初回に配布する。このシラバスや講義中の説明で、次回どこを学ぶのか確認し、予習を行うこと。講義中に学んだ部分を復習すること。不明な点、理解できない点については、講義の前後に質問すること。	片桐
	2	<b>米国の初期対日占領政策-1</b> 1945年に始まったGHQの初期占領改革の意図、poor but democraticという言葉に象徴される戦後日本の構想について理解する。			
	3	<b>米国の初期対日占領政策-2</b> 間接占領、民主化・非軍事化政策、新憲法制定、戦犯追放、女性参政権等の占領改革の実像を理解する。			
	4	<b>米国の占領政策の修正-1</b> 1947年頃からの冷戦のアジアへの波及の影響を受けて、占領政策の主眼がpoor but democraticから、ソ連や共産中国と対峙するという冷戦戦略の一環としての性格を帯びることとなった。米国の意図と日本側の期待について理解する。			
	5	<b>米国の占領政策の修正-2</b> 西側の一員としての独立回復、片面講和、アチソン・ライン、沖縄を中心とする在日米軍基地の充実と強化、日本への再軍備要請等の修正の実像と、それらが今日に至る戦後日本の原型を創り出したことについて理解する。合わせて日ソ国交正常化、北方領土問題、国連加盟についても理解する。			
	6	<b>「もはや戦後ではない」時代への移行</b> 朝鮮特需の影響と、戦後経済からの離脱、対米対等を模索する日本の安保改定、日米新時代の構築等について理解する。		第6回 教科書 p.22-30.	
	7	<b>所得倍増計画と「上を向いて歩こう」</b> 安保改定を終えた日本は高度経済成長時代に突入し、大量生産・大量消費時代を迎える。その陰で中学を卒業し地方から都市に金卵の孤独、都市の肥大化と農村の過疎化等の問題が発生する。その原因について理解する。		第7回 p.33-38. p.50-57.	
	8	<b>「第三の大国日本」の構築</b> 高度経済成長を達成しながら、日本は東京オリンピックを成功させ、一流国の証明であるIMF8条国入りと経済協力開発機構(OECD)への加盟を果たした。一流国の証明の意味について理解する。合わせて世界第2位の経済大国への躍進、国民皆保険制度、国民年金についても理解する。だが矛盾する側面も露呈することになった。そうした光と影について理解する。		第8回 p.58-66.	
	9	<b>「豊かさ」へのtake off(離陸)</b> 高度経済成長政策の開化によって経済大国化した日本では、国民の間に1億総中流意識が広まるとともに、大規模団地の誕生や核家族化が進んだ。その結果、消費が美徳となり、「大きいことはいいこと」になった。弊害として、お金信仰が生まれ、精神的豊かさがないがしろにされるようになった。そうした弊害について理解する。		第9回 p.67-78.	
	10	<b>ヴェトナム戦争、反米・反戦意識の高揚</b> 1960年代の後半からのヴェトナム戦争の激化と泥沼化に伴い、国内でもその批判が高まった。それは、反米運動を高め、日米関係を緊張をもたらすとともに、米国自国の力の低下をもたらし、冷戦の終焉に世界を向かわせることになる。その要因について理解する。		第10回 p.89-96.	
	11	<b>日中国交正常化・沖縄返還・「戦後」の終焉</b> 冷戦の終焉は、戦後の日本に課された課題を北方領土の返還を除き達成可能とした。「戦後」の課題とは何か、それがいかにして解決可能になったのかについて理解する。		第11回 p.97-105.	
	12	<b>日本株式会社(Japan Inc.)批判と変動相場制移行</b> 経済力の斜陽化が進む米国と陽の昇る勢いの日本との間の貿易摩擦は日米経済戦争と比喩されるほどに悪化し、対米貿易黒字の見直し、貿易の自由化、円の変動相場制への移行を迫られた。なぜこれほど日米関係が悪化したのか、理由を理解する。		第12回 p.108-120.	
	13	<b>日本の大国化と国際化、国際貢献</b> 日本の大国化に伴って、日本は外に向けてと内に向けての国際化を迫られた。その結果、異文化理解、使える外国語の必要性が叫ばれ、日本論や日本人論も盛んに論じられた。国際化の意味とその背景について理解する。		第13回 p.97-105. p.108-119.	
	14	<b>性差別解消へのチャレンジ</b> 日本では女性の議員や管理職が少ない。フェミニズム、男女雇用機会均等法、性別分業役割、ジェンダー等の問題や解決法の一つとしてのaffirmative actionの是非について理解する。		第14回 p.151-168. 第15回	
15	<b>まとめ</b> 転換期の日本のこれからの方向性、普通の国、積極的平和主義等について考え、私達の置かれた国の有り様、国際社会において占めるべき位置、役割について理解する。		全体の総括。日本の課題や方向性について議論したい。		
自己学修時間	60時間				
評価方法	筆記試験(100%)				
教科書	鹿野政直『日本の現代』岩波ジュニア新書、2010年、740円とプリント				
参考書	升味準之助『戦後政治』上・下巻、東大出版会、1983年。入江昭『新日本の外交』中公新書、1991年、740円。明石康『日本の立ち位置を考える』岩波書店、2013年、2100円他。				
参考文献等	金曜日の講義前と終了後。/場所:非常勤講師室				
履修要件	日本の政治、経済、社会の動きに関心がある学生。ニュースを新聞で読む、或いはテレビやインターネットで観る学生。				
備考	物事に真面目に取り組む学生の履修を期待したい。				

科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	可
授業科目名	生活と科学 (自然科学と生活:生物学)		科目履修	可	単位互換
科目番号	A04004	クラス番号	C1(学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 前期semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	青木武生	そ の 他			
担当教員	青木武生				
授業の概要	この授業においては科学を広義に捉え、自然科学を科学の一領域として位置づけた上で自然科学の一つである生物学の成立と展開、生物学の成果と現代の生活との関係を学習する。また、生物学の研究手法に触れるとともにその方法の特徴と限界、学問としての生物学の発展性と生物学の研究成果を生活に活用するための課題について学習する。				
目的 目 標	目的: 人間も含む自然界における現象を理解するための基本的な思考力を養う。 目標: 動物の体作りを中心課題として生物学的に理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業 形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	地球の歴史と生命の進化 1	講義	【事前学修】 普段から絶滅危惧種、温暖化問題、健康問題に興味を持ち、新聞、ニュースに敏感になること。ディベートを行いますので、問題意識を高めておく。  【事後学修】 ディベートで出た問題の解決策を自分なりに考えておく。	青木
	2	地球の歴史と生命の進化 2			
	3	食品添加物、健康食品の問題点(ディベート)			
	4	ヒトの発生様式と分化 1			
	5	ヒトの発生様式と分化 2 男性不妊治療を含む			
	6	気候変動とエネルギー問題(ディベート)			
	7	iPS細胞とその応用、生命倫理(ディベート)			
	8	ニコチン中毒と副流煙(ディベート)			
	9	遺伝子組み換え食物の是非(ディベート)			
	10	自然保護、動物園の今日的意義と発展性(ディベート)			
	11	LBTG教育、性教育の是非(ディベート)			
	12	日本をめぐる動物資源問題と解決策(ディベート)			
	13	グループによるプレゼンテーション			
	14	グループによるプレゼンテーション			
15	色盲、血友病、三毛猫の遺伝学				
自己学修時間	60時間				
評価方法	Manabaによる提出課題(10%)、ディベートの内容と関係する論述式の試験結果(70%)、授業時間内に課すプレゼンテーションの内容(10%)、ディベートへの貢献度(10%)によって評価します。試験は期末試験期間中に実施				
教科書	なし 適宜ハンドアウトを配布します。(看護の教科書の抜粋を含む)				
参考書 参考文献等	新星出版社 田近英一著 大人のための図鑑 ビジュアル「地球・生物の大進化」 羊土社 上野直人、野地澄晴著 「新形づくりの分子メカニズム」 中公新書 深井 有著「気候変動とエネルギー問題」				
オフィスアワー	青木:火曜日 13:00~17:00 研究室	連絡先	青木: aoki-take@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	特になし				

科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	可
授業科目名	生活と科学 (自然科学と生活:化学)		科目履修	可	単位互換
科目番号	A04005	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 後期セメスター		単 位	2単位 30時間	
科目責任者	石川良樹	そ の 他	なし		
担当教員	石川良樹				
授業の概要	この授業においては、科学を広義に捉え、自然科学を科学の一領域として位置づけた上で自然科学の一つである化学の成立と展開を学習し、化学的研究成果と現代の生活との関係を学習する。また、化学の研究手法に触れ、その方法の特徴と限界、学問としての化学の発展性と化学的研究成果を生活に活用する上での課題について理解する。				
目的 目 標	目的:生活に身近な現象について化学的に解説、考察し、医療従事者として必要な化学の基礎を理解する。 目標: i)物理化学では化学結合を主体とする構造論と熱力学、酸化・還元と酸・塩基反応 ii)無機化学では周期表と周期律、並びにそれを基にした元素各論 iii)有機化学では有機化合物の構造・性質、及び有機化学反応 iv)高分子化学では高分子の構造・種類・性状 v)生命化学では生体を構成する物質(特にDNA、RNA、タンパク質など)を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	序論:化学の成り立ち	講義	事前:教科書の 関連各章を 読んでくること。  事後:授業で 使用した プリント、 メモを元 に、ノート の作成を 行うこと。	石川
	2	原子と分子			
	3	元素の性質と反応			
	4	酸と塩基			
	5	酸化と還元			
	6	化学反応とエネルギー			
	7	化学反応と速度論			
	8	有機化合物の性質と反応(1)有機化合物とは			
	9	有機化合物の性質と反応(2)鎖式炭化水素			
	10	有機化合物の性質と反応(3)酸素・窒素を含む化合物			
	11	有機化合物の性質と反応(4)カルボン酸とその誘導体			
	12	有機化合物の性質と反応(5)芳香族化合物			
	13	生命と化学反応(1)糖、核酸			
	14	生命と化学反応(2)タンパク質			
	15	高分子化合物の構造と性質			
自己学修時間	60時間				
評価方法	期末試験の成績(100%)				
教科書	系統看護講座 基礎分野 化学 第6版 著者:杉田良樹 医学書院				
参考書 参考文献等	特になし				
オフィスアワー	月曜日/時間:13時~14時/研究室	連絡先	ryoki@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	特になし				

区 分	環境と科学			聴講	可
授業科目名	自然現象と科学 (自然科学の基盤：数学)		科目履修	可	単位互換
科目番号	A04006	クラス番号	A04006		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次)前期 Semester		単 位	2単位 30時間	
科目責任者	都丸 正	そ の 他			
担当教員	都丸 正				
授業の概要	人間は、自然現象を解明するための手段として自然科学を発展させてきた。また、自然科学的思考の基盤である数学は、自然科学研究を行う上で必要不可欠な学問である。この授業においては、数学の形成の過程とその歴史的・文化的背景、現代の自然科学文明の基礎となる数学的思考の特徴を学習する。				
目 的 目 標	目的： 大学数学の基礎を学び、数理的思考を磨く。 目標： 高校数学の延長線上にある、線形代数と2変数の微分積分学を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	線形代数1 (連立方程式と行列)	講 義 と 演 習	毎回、授業の始めに15分程度復習をする。事前学修は特に必要がないが、事後学修として授業中に適宜レポート等を指示する。	都丸
	2	線形代数2 (行列と行列式)			
	3	線形代数3 (行列と行列式)			
	4	線形代数4 (行列と行列式)			
	5	線形代数5 (固有値と対称行列の対角化)			
	6	線形代数6 (固有値と対称行列の対角化)			
	7	線形代数7 (因子分析入門)			
	8	1変数関数のテーラー展開1			
	9	1変数関数のテーラー展開1			
	10	偏微分1 (接平面)			
	11	偏微分2 (接平面、極値問題)			
	12	偏微分3 (応用：回帰直線)			
	13	重積分1			
	14	重積分2 (立体の体積の求め方)			
	15	重積分3 (正規分布密度関数の期待値等の計算)			
自己学修時間	60時間				
評価方法	講義中の質疑応答、レポートと授業中の問題解答を3割、期末テストの成績をおおむね7割として総合的に評価する。評価基準は学則による。ただし期末テストの受験は必須です。				
教科書	教養の数学 樋口・猪熊 森北出版				
参考書 参考文献等	特になし				
オフィスアワー	講義前後/場所：非常勤講師室	連絡先			
履修要件	特になし				
備 考	高校2年生までの数学をよく理解していること。 近年の看護を始めとする医療系でも、そのデータ処理等においては多変量データの取り扱いが重要となり、例えば因子分析等は常識になりつつある。こうした統計を学ぶ際の基礎となることを踏まえて、線形代数と微積分を半分ずつ講義します。 数学 を履修していることが望ましいが、必要な箇所は補足説明する。				

科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	可
授業科目名	自然現象と科学 (自然現象の基盤：物理学)		科目履修	可	単位互換
科目番号	A04007	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次 後期 Semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	大野由美子	そ の 他			
担当教員	大野由美子				
授業の概要	物理学とは、自然現象を支配する法則を発見し、その帰結を研究して体系化することにより、自然現象の理解に寄与するとともに、応用への道を開く学問分野である。この授業においては、この世に存在する自然現象の派生と帰結が物理学的視点からどのように解明されてきたかを学習し、物理学の特徴とその人間社会との関連を理解する。				
目的	目的：看護学部・診療放射線学部問わず、医療人に最低限必要な物理学の理解と、その物理学がどのように成り立っていて、その特徴はどんなところにあるかを学習する。				
目 標	目標：物理学が現在の科学技術や医療にどのように役立っているのかを理解し、知識を活用する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	医療(診断、治療)に関わる物理、放射線の利用、暮らしの中の放射線	講義	事前学修 教科書の該当箇所に目を通し、分からないこと分かることを明らかにしておく。  事後学修 理解できたところ、まだ分からないところを明らかにし、講義中に行われた問題演習の復習と宿題を必ず行う。	大野
	2	力学1(運動に関する物理量 運動を表現するいろいろな量概念)			
	3	力学2(力学量の因果関係 運動を表現する基本的な関係)			
	4	力学3(運動方程式)			
	5	力学4(円運動)			
	6	力学5(単振動、波)			
	7	力学6(運動方程式2)			
	8	力学7(仕事とエネルギー)			
	9	力学8(エネルギー保存則)			
	10	力学9(力積、運動量)			
	11	電磁気学1(電気に関係する基本量 静電気に関わる基本概念)			
	12	電磁気学2(電流の基本法則 電流(直流)発生の仕組みと静電気の基本量との関係)			
	13	電磁気学3(電場、磁場)			
	14	電磁気学4(電場、磁場)			
	15	まとめ			
自己学修時間	60時間(高校で物理未履修の場合、高校3年間で学んだものと大学の物理学の初歩を簡単に習得は出来ないので、事前に教科書の該当箇所に目を通し、事後学修は復習と問題演習を必ず行って下さい。)				
評価方法	筆記試験 80%、レポート 20%				
教科書	大学新入生のための物理入門 第2版(廣岡秀明 著、共立出版)				
参考書 参考文献等	高校時に使用した教科書など				
オフィスアワー	水曜日 15:30~16:30	連絡先	ohno@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	特になし				

科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	可	
授業科目名	環境科学		科目履修	可	単位互換	
科目番号	A04008	クラス番号	C1(学部合同)			
授業形式	講義	必修選択区分	選択			
開講時期	1年次・(2年次) 前期セメスター		単 位	2単位 30時間		
科目責任者	石川良樹	そ の 他	なし			
担当教員	石川良樹					
授業の概要	環境科学は、自然環境やその破壊を人間や生物との関わりにおいて捉える学問である。この授業においては、環境科学の対象となる自然環境に関わる諸問題、環境科学の起源と特徴を学習する。また、環境ホルモン問題など地球上の様々な環境問題の構造とこれを解決するための取り組みを理解し、人間の生活や健康と環境との関係を学ぶ。これらの学習を通して未来を志向し、人間の生活を取り巻く諸問題を解決する態度を理解する。					
目 的 標	<p>目的：人間の生活や健康と環境との関係を理解し、環境問題に自ら取り組む態度を身に付ける。</p> <p>目標：1 地球の成り立ちを理解する。  2 進化と環境の関係を理解する。  3 公害が身体に及ぼす作用を理解する。  4 感染症の危険性を理解する。  5 人間の営みと環境の関連を理解する。</p>					
授業の内容と方法	回	授業内容		授業形態	事前・事後学修(学修課題)	担当
	1	環境科学イントロダクション		講義	<p>普段から環境問題に興味を持ち、新聞、ニュースに敏感になること。</p> <p>学修課題：  ・地球の成り立ちを理解する。  ・進化と環境の関係を理解する。  ・公害が身体に及ぼす作用を理解する。  ・感染症の危険性を理解する。  ・人間の営みと環境の関連を理解する。</p>	講義
	2	宇宙 地球 生命				
	3	生物進化と分子進化				
	4	生物の歴史 絶滅と進化				
	5	人類の歴史と文明				
	6	産業と公害				
	7	化学物質の光と影				
	8	水と環境				
	9	花粉症の環境要因				
	10	新興感染症				
	11	再興感染症				
	12	食の安全				
	13	人口論				
	14	生命科学の発展と医療				
15	まとめ					
自己学修時間	60時間					
評価方法	毎回出題するレポート評価の平均(100%)					
教科書	特になし					
参考書 参考文献等	特になし。毎回それぞれの項目についてプロジェクター、DVD等で講義を進める。					
オフィスアワー	月曜日/時間:13時~14時/研究室	連絡先	ryoki@gchs.ac.jp			
履修要件	特になし					
備考	特になし					

科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	否
授業科目名	スポーツ科学 (スポーツ理論)		科目履修	可	単位互換 可
科目番号	A04009	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次)前期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	鈴木昭彦	そ の 他			
担当教員	鈴木昭彦				
授業の概要	スポーツ科学とは、スポーツすなわち身体運動を科学的に解明し、スポーツとは何かを追求する学問である。この授業においては、様々なスポーツ理論の実生活への応用、運動のメカニズム、運動が身体に及ぼす影響をスポーツ科学の研究成果に基づき理解する。				
目 的 標	目的：人間は動物であり体を動かすことで身体を整え健康を保っている。身体のメカニズムを科学的に捉え、運動が身体に及ぼす影響を理解し、健康な生活を実現する態度を養う。 目標：1．解剖学的・生理学的知識に基づき、身体の仕組みを理解する。 2．運動不足が身体に及ぼす影響を理解する。 3．健康を求めて身体を動かす運動やスポーツの理解を深める。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	スポーツの定義と身体活動の要素と影響	講義 ・ 演習	【事前学修】 生活習慣病について、また、 予防方法について事前に調べておく。 【事後学修】 一週間の生活記録を付け栄養・休養・運動から検証する。	鈴木
	2	身体のメカニズム(呼吸と循環)			
	3	身体のメカニズム(筋と骨格)			
	4	身体のメカニズム(筋収縮エネルギーと酸素)			
	5	身体のメカニズム(感覚と運動)			
	6	体力の概念・体力の構成要素			
	7	運動の意味を考える			
	8	健康の三大要素と生活習慣病の予防			
自己学修時間	30時間				
評価方法	試験 60%・レポート 30%・毎時間の講義内容カード 10%で総合評価します。				
教科書	大学生の健康・スポーツ科学 道和本院				
参考書 参考文献等	特になし				
オフィスアワー	講義前後/場所：非常勤講師室	連絡先			
履修要件	特になし				
備 考	試験は全講義終了後、次の週に行う予定です。				

科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	可
授業科目名	スポーツ科学 (体力づくり)		科目履修	否	単位互換 可
科目番号	A04010	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次)前期・後期セメスター	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	近藤照彦	そ の 他			
担当教員	近藤照彦				
授業の概要	この授業においては、身体発達や健康維持・増進の基礎となる体力について学習する。様々なトレーニングを体験し、体力、特に行動体力の中でも、最も必要とされる持久力・筋力・柔軟性に関しその保持・増進の方法について学習する。				
目的 目 標	目的：健康のための運動の実践と体力の向上を目的とする。 目標：集団行動における協調性やコミュニケーションを養うことを目標とする。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	講義概要の解説と履修選択抽選・調整	講義 ・ 演習	生活習慣病等健康について関心をもち知識習得に努める。 講義で体験した各種スポーツを実践する。日常的な運動習慣を身につける。	近藤
	2	実技			
	3	12分間走テスト			
	4	実技(選択)			
	5	実技(選択)			
	6	実技(選択)			
	7	実技(選択)			
	8	実技(選択)			
	9	実技(選択)			
	10	実技(選択)			
	11	実技(選択)			
	12	実技(選択)			
	13	実技(選択)			
	14	実技(選択)			
15	12分間走テスト				
自己学修時間	15時間				
評価方法	受講状況(70%)、健康カードへの記載状況・12分間走・実技能力(30%)の総合評価とする。				
教科書	なし				
参考書 参考文献等	なし				
オフィスアワー	講義前後/場所：非常勤講師室	連絡先			
履修要件	特になし				
備 考	定員は40名を希望します。履修希望者が定員を超えたときは、抽選により履修者を決定します。 スポーツのできる服装とシューズを準備してください(トレーニングウェア、屋内用シューズ、屋外用シューズ)私服は認めません。				



科目区分	教養教育科目 環境と科学			聴講	否	
授業科目名	スポーツ科学 (身体表現)		科目履修	否	単位互換	否
科目番号	A04011	クラス番号	C1 (学部合同)			
授業形式	演習		必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・(2年次) 後期セメスター		単 位	1単位 30時間		
科目責任者	松本富子		そ の 他			
担当教員	松本富子					
授業の概要	この授業においては、世界的に普及し、様々な人々に楽しんでいるダンスを通して、身体表現方法及びコミュニケーション技術を学ぶ。また、国際社会に通用する教養としてのダンスの歴史、意義などを理解する。					
目的 目 標	(目的) ダンスによる身体表現を学ぶとともに、「フラッシュモブ」によるノンバーバルなコミュニケーションの体験を通して、その意義と方法を学ぶ。 (目標) 楽しんで踊る経験を重ね、動きを工夫してダンスを踊ったり、他の人が参加したり見たりできる「フラッシュモブ」を企画して、交流する楽しさや意味を体験的に理解する。					
授業の内容と 方法	回	授業内容	授業 形態	事前・事後学修(学 修課題)	担当	
	1 10/2	オリエンテーション：授業概要解説(講義・実技) ならびに授業の進め方,諸準備に関する説明	実技 講義	【事前学修】 ・配付資料、ダンスのビデオ・書籍等により、身体表現文化に関する基礎知識を収集する。  【事後学修】 ・活動を振り返り成果を確認すると共に次への課題を持つ。 ・発表に向けた個別ならびにグループ別練習 ・学外でのダンス文化に関心を持ち、行う、見る、支えるなどの活動に参加してみる。	松本	
	2 10/9	講義 身体と表現 - ダンスにみる身体表現文化の多様性とその構造 / 現代にみる身体表現「ダンス・フラッシュモブ」 - 意味や活用				
	3 10/16	実技 ダンスのからだづくり / ダンスの楽しみとコミュニケーション(1)				
	4 10/23	実技 ダンスの楽しみとノンバーバルなコミュニケーション(2)				
	5 10/30	実技 ダンスの楽しみとノンバーバルなコミュニケーション(3)				
	6 11/6	実技 ダンスの楽しみとノンバーバルなコミュニケーション(4)				
	7 11/13	実技 ダンスの楽しみとノンバーバルなコミュニケーション(5)				
	8 11/20	実技 ダンスモブを体験する(1)				
	9 11/27	実技 ダンスモブを体験する(2)私たちのモブを体験する				
	10 12/4	実技 ダンスモブを体験する(3)私たちのモブにチャレンジ				
	11 12/11	実技 ダンスモブを体験する(4)私たちのモブにチャレンジ				
	12 12/18	実技 ダンスモブを体験する(5)私たちのモブにチャレンジ				
	13 1/8	実技 ダンスモブを体験する(6)私たちのモブにチャレンジ				
	14 1/22	実技試験 私たちのダンスモブ / 発表にチャレンジ(リハーサル)				
15 1/29	ダンスモブ(学内実施・昼休み) / 4校時：実技試験 / 振り返り・まとめ					
自己学修時間	15時間					
評価方法	毎時間後の振り返り(20%) 毎時間の実技およびダンスモブパフォーマンス作品づくりとその発表(60%) 講義に関する課題レポートやまとめのレポート(20%)					
教科書	適宜紹介する					
参考書 参考文献等	参考資料、インターネット検索情報などを適宜紹介する					
オフィスアワー	講義前後 / 場所：非常勤講師室	連絡先				
履修要件	特になし					
備 考	特になし					